

No.22 >>> Contents

●年頭所感

土着と伝統産業の力の発揮を (財)大日本蚕糸会 会頭 高木 賢 ————— ①

●提携支援センターから

蚕 物 語 蚕糸・絹業提携支援センター ————— ②

平成 23 年度第 4 次純国産絹マーク使用許諾状況
. 社団法人 日本絹業協会 ————— ⑤

提携支援センター活動日誌 No. 22 ————— ⑧

●今月の話題

市制施行 90 年の群馬県桐生市で盛大に “シルク・サミット” 開催
. 蚕糸・絹業提携支援センター 野村 郁治 ————— ⑨

●国内情報

シルク遺産を訪ねて② 入間市の旧石川組製糸が献堂した教会堂
. 東京産業考古学会 副会長 平井 東幸 ————— ⑮

●海外情報

中国シルク産業の発展概況 中国絲綢協会 秘書長 銭 有清 ————— ⑳

●トピックス

国内産地情報、海外情報（中国） ————— ㉑

●横浜開港とシルク貿易

絹織物・絹製品の輸出 シルク博物館 元部長 小泉 勝夫 ————— ㉓

●イベント情報 ————— ㉔

●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧 ————— ㉕

●蚕糸関係博物館一覧 ————— ㉙

●蚕糸関係団体ホームページ一覧 ————— ㊴

●統計資料 ————— ㊵

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)



土着と伝統産業の力の発揮を

(財)大日本蚕糸会
会 頭 高 木 賢

新年おめでとうございます。

昨年は、未曾有の大震災に遭遇し、また、原発事故が引き起こされた大変厳しい年でしたので、年が変わったことをもって、まずはちょっぴり気分が転換した思いです。

しかし、年が変わったというだけで事態の実質が変わるわけではありませんので、同時に、今年の課題を明らかにし、前進していかなければならないとの思いも新たにしています。

その最大のものは、いうまでもなく、昨年3月末までにできた蚕糸・絹業提携グループの発展と純国産絹製品の販売促進（そしてそのための純国産絹マークの普及）を図っていくことです。東日本大震災は、経済の各方面に大打撃を与えました。国民の意識においても、「安全第一」という感覚が支配的になり、「ゆとり」のある生き方からは若干遠ざかった感があります。絹製品の需要も例外ではありません。各提携グループ、各企業とも、苦難に遭遇していることと存じます。しかし、養蚕・製糸と染・織の伝統産業を基礎にしている蚕糸・絹業提携グループは、外国人のように、逃げだすわけにはいきません。

苦しいでしょうが、原点に返って、土着と伝統産業の底力を発揮してやっていく以外にありません。多少守りに入るのはやむを得ないと思います。先の見えないときは、正しい方向をというより、むしろ間違いのない方向を見つけるべきだし、耐久力のある間違いのない一歩が肝要と思います。

高校生の時に読んだ本に、「長い距離を走るときは、とにかくまずあそこに見える電信柱まで走ろう、という小目標を立ててそれを実行しつないでいくことだ。」と書いてあったことを思い出します。耐久力と小目的達成の積重ねあるのみとの趣旨です。

そして、我慢して走っていれば転換点は必ず来る。いつか必ず来る攻めへの転換点を逃さないよう、世の動向に十分な注意を払いつつ、頑張っていきましょう。

「シルク産業復興」シンポジウム

蚕 物 語 —奄美養蚕の復活を目指して—

蚕糸・絹業提携支援センター

鹿児島県奄美大島で養蚕が始まったのは、1623年。当時は、薩摩藩の統治下がありました。琉球絣で有名な沖縄県久米島には、それより少し前1619年に養蚕が導入されたとの記録があります。

しかしながら、50年度ほど前には、奄美黒糖の生産奨励とともに、養蚕はほとんど形もなくなっていました。そこで、奄美大島紬関係者などが奄美島絹（あまみしまぎぬ）推進協議会を組織し、「奄美養蚕再興」をめざして立ちあがりました。平成23年には、植栽した桑を使い、蚕の飼育が始まりました。

試験飼育の実施

協議会会長の南さんにとって蚕の飼育は



島桑や一ノ瀬を植えている



蚕室を建てる南修郎氏

初めて。そこで、稚蚕飼育の勉強にと蚕種業者「愛媛蚕種株」で2週間の飼育実習。その3齢の蚕を奄美に移動し、壮蚕飼育も体験しました。今回開催したシンポジウム会場には、収穫した繭も展示されました。

そして、12月には、1箱分の飼育（稚蚕は愛媛県、3齢から奄美での飼育）を始めました。現在は、水害により桑園の桑が流され、ところどころ欠株がみられます。補植を行っていく予定です。これに加え、稚蚕飼育室や蚕室の建設も急がれています。何事も初めての経験。「見様見真似の養蚕」と南さんは謙遜していますが、力強いチャレンジが始まっています。

シンポジウムの開催

奄美島絹協議会は、試験飼育の経験をもとに、島桑で育てた繭を使い、純奄美蚕絹で付加価値のある奄美大島紬やその他絹の利用を図り、奄美大島の多くの方々に養蚕復活を通じて新しいシルク産業おこしに関心をもっていただくことなどを目的とした、シンポジウム「蚕物語—奄美養蚕の復活を目指して」を11月26日、奄美市立奄美博物館で開催しました。

シンポジウムでは、基調講演「蚕糸・絹業の現状と今後の課題」を財団法人大日本蚕糸会高木会頭が行いました。

その後、パネルディスカッション「奄美における蚕の歴史と養蚕の可能性」が開催されました。



会場には70名を超える参加者

パネリストは、高木会頭のほか、奄美郷土史研究家・弓削政己氏、繭と絹等利用した化粧品等販売会社(株)アーダン会長・西里依氏、奄美島絹推進協議会会長・南祐和氏の4人、コーディネーターは、地元新聞社である南海日日新聞社常務・松井輝美氏で行われました。



基調講演を行う高木会頭

「多様な絹商品開発で、奄美の養蚕振興」を推進しているパネラーの南さんは、3年前から養蚕の復活に取り組んできました。23年5月には、試験的に2,000頭の蚕を飼育。12月には、特徴ある蚕品種「琉球多蚕繭」の飼育に取り組みました。この繭を使用して、「真綿→紬糸→大島紬」の商品開発を検討し、24年には、純奄美産の大島紬を作りたいと抱負を語りました。桑葉が不足していることから、桑栽培の農家の募集もお願いしました。

郷土史を研究している弓削さんからは、「奄美で完全に養蚕が消えたのは、昭和60年。昭和23年、アメリカの軍政下に置かれていた時、10トンの繭生産がおこなわ



シンポジウムではパネラーから報告



会場にはパネル、大島紬繭などを展示

れていたという記録がある」といいます。

アーダンの西会長さんは、絹の機能性に注目し、絹化粧品品の製造を平成8年から行っています。今後は通販等を利用して販売していく予定です。繭の利用として、枕に繭そのものを入れ健康まくらとしての販売などしています。

高木会頭からは、3月の大震災の影響等もあり、きものの需要減等の状況報告がありました。このほか、絹たんぱく質利用化粧品、蚕を利用した冬虫夏草、健康食品としての桑葉のお茶など多様な展開など各地の動きを紹介。「今後養蚕を続けていくためには、「養蚕技術の向上と継続してやっていく意思」が必要であり、桑もすぐにはいいものができません、奄美の養蚕の取組は大変貴重な経験です」と語りました。

当日は、会場参加者からも活発な意見をいただきました。

養蚕の経験者は、「奄美には、島桑として「奄美1号から5号まで」5種類の桑がありました。そのうち、どの桑が現在の養

蚕に効率的なのか、検討する価値があると思います。」と発言され、早急に検討することとしました。

また、繭の乾燥には、島内にある「椎茸乾燥機」の利用を奨める声もありました。

今後の活動

奄美では、大島紬が代表的な絹織物ですが、これ以外の商品開発が遅れています。

例えば、沖縄県では、紅型や帯など商品は何10種類もありますが、奄美はまだまだの状況です。多様な商品開発を行っていくことが目標となっています。まだ養蚕がスタートについたばかりであり、商品となる繭・生糸・絹織物が不足しています。

蚕を飼育し、繭の生産を増やすことが大きな課題となっています。

今回、奄美で養蚕のシンポジウムを開催し、多くの市民等に聞いていただく場が持てたこと、このシンポジウムには、奄美市教育委員会の後援を得たことなど、収穫のある催しでありました。

閉会の挨拶でも、奄美島絹推進協議会の南修郎さんは、「奄美の養蚕は成功するまで続けます。失敗はありません。」と締めくくりました。

台風の常襲地区ではありますが、桑栽培技術を確立し、蚕の飼育に邁進する奄美島絹推進協議会の皆さまのご活躍を祈念いたします。

平成 23 年度第 4 次分純国産絹マーク使用許諾状況

—新規製品 5 品目、追加 5 品目に使用許諾—

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 23 年度第 4 回審査会を 10 月 20 日 (木) に開催し、今回、15 者 (うち、新規使用許諾申請が 3 者で新規製品が 5 品目、使用許諾されている者の製品の追加が 5 品目、生産履歴の追加が 4 品目、生産数量の追加が 19 品目) から申請があり、審査の結果、10 月 31 日 (月) 付けで純国産絹マークの使用許諾をすることとしました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
勝山織物株式会社 代表者名：勝山嘉夫 (担当者：勝山健史) 京都市北区衣笠北高橋町 30 Tel 075-461-1444 表示者登録番号 153	帯 (金銀糸 5 % を 超えるもの)	80 本	蚕品種 あけぼの 繭生産 長野県飯田市養蚕農家 製 糸 (株)宮坂製糸所 製 織 自社
有限会社石川 代表者名：石川淳一 (担当者：石川治郎) 群馬県みどり市笠懸町鹿 4453-11 Tel 0277-77-7250 表示者登録番号 154	後染型友禅 (新小石丸)	28 反	蚕品種 新小石丸 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 羽賀織物 染 色 山彩
	羽二重色無地 (ぐんま 200)	17 反	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 高橋絹工業(株) 染 色 山彩
	先染ジャガード織 (ぐんま黄金)	10 反	蚕品種 ぐんま黄金 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 色 堀越染工場 製 織 (有)森村織物工場
東朋株式会社 代表者名：酒井靖郎 (担当者：酒井靖郎) 京都府与謝郡与謝野町字上山田 967-1 Tel 0772-42-3843 表示者登録番号 155	ストール	500 枚	制作企画 北山杉染秀 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 撚 糸 松村 (株) 製 織 自社 染 色 北山杉染秀
(生産数量の追加、製品の追加) 株式会社甲斐絹座 代表者名：前田市郎 (担当者：前田市郎) 山梨県富士吉田市下吉田 1503-4 Tel 0555-23-2280 表示者登録番号 149	スカーフ	(数量の追加) 500 枚	繭生産 山梨県内養蚕農家 製 糸 松沢製糸所 染 色 (有)石森染色 製 織 自社
	ネクタイ	500 本	加 工 自社

(生産数量の追加、生産履歴の追加) 株式会社加藤萬 代表者名：加藤健治 (担当者：井口通太郎) 東京都中央区日本橋富沢町 2-6 Tel. 03-3661-7747 表示者登録番号 129	帯揚 (みふじ) (絞り染め)	(数量の追加) 200 本	蚕品種 繭生産 製糸 製織 染色 絞り 刺繍	ぐんま 200 JA 碓氷安中管内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株)一色テキスタイル (有)今井正染工 自社 (有)西刺繍
	帯揚 (みふじ) (枠場量し)	(履歴の追加) 200 本	蚕品種 繭生産 製糸 製織 染色 金彩 刺繍	ぐんま 200 JA 碓氷安中管内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株)一色テキスタイル 染の川津 金彩綾錦殿村 (有)西刺繍
	帯揚 (みふじ) (金彩)	(履歴の追加) 200 本	蚕品種 繭生産 製糸 製織 染色 金彩	ぐんま 200 JA 碓氷安中管内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株)一色テキスタイル (有)今井正染工 金彩綾錦殿村
	帯揚 (みふじ) (ちりめん)	(履歴の追加) 100 本	蚕品種 繭生産 製糸 製織 染色	ぐんま 200 JA 碓氷安中管内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株)一色テキスタイル 染の川津
(生産数量の追加、製品の追加) 長島繊維株式会社 代表者名：長島秀武 (担当者：長島誠) 栃木県足利市旭町 852 Tel. 0284-41-7381 表示者登録番号 122	後染反物 (着尺)	(数量の追加) 33 反	蚕品種 繭生産 製糸 製織 染色	錦秋×鍾和 東京都多摩地区養蚕農家 碓氷製糸農協 河芳織物(有) 自社
	(製品の追加) 後染反物 (帯地)	48 本	蚕品種 繭生産 製糸 製織 染色	春嶺×鍾月 東京都多摩地区養蚕農家 碓氷製糸農協 河芳織物(有) 自社
(生産数量の追加) 株式会社千總 代表者名：仲田 保司 (担当者：俵 武司) 京都市中京区三条通烏丸西入 Tel. 075-211-2531 表示者登録番号 001	後染反物 (訪問着)	(数量の追加) 50 枚	繭生産 製糸 製織 染色	岩手県北部・南部、 青森県八戸市養蚕農家 松岡(株) 加賀グンゼ(株) 自社
	後染反物 (訪問着)	(数量の追加) 50 枚	繭生産 製糸 製織 染色	岩手県南部養蚕農家 松岡(株) 加賀グンゼ(株) 自社
	後染反物 (振袖)	(数量の追加) 180 枚	繭生産 製糸 製織 染色	岩手県南部養蚕農家 松岡(株) (株)竹林 自社
	後染反物 (振袖)	(数量の追加) 90 枚	繭生産 製糸 製織 染色	岩手県北部養蚕農家 松岡 (株) (株)松浦絹織 自社
(生産数量の追加) 株式会社高島屋 代表者：鈴木 弘治 (担当者：宇野 万貴子) 東京都中央区日本橋 2-4-1 Tel. 03-3211-4111 表示者登録番号 030	後染反物 (振袖)	(数量の追加) 80 枚	繭生産 製糸 製織 染色	JA 那須南管内養蚕農家 松岡(株) 美雲織物(株) (株)千總
	後染反物 (振袖)	(数量の追加) 150 枚	繭生産 製糸 製織 染色	JA 那須南管内養蚕農家 松岡(株) (株)竹林 (株)千總

株式会社高島屋（続き）	後染反物 （振袖）	（数量の追加） 100 枚	繭生産 製 糸 製 織 染 色	JA 那須南管内養蚕農家 松岡(株) (株)松浦絹織 (株)千總
（生産数量の追加） 株式会社染織近藤 代表者名：近藤 典博 （担当者：近藤典博） 岡山県岡山市北区丸の内 1-7-3 Tel086-226-5298 表示者登録番号 107	色無地 （紋意匠）	（数量の追加） 4 反	繭生産 製 糸 製 織 染 色	岩手県北部・青森県 八戸市養蚕農家 松岡(株) (株)竹林 (株)千總
	色無地 （紋意匠）	（数量の追加） 4 反	繭生産 製 糸 製 織 染 色	岩手県南部・北部養蚕農家 松岡(株) 美雲織物(株) (株)千總
	色無地 （紋意匠）	（数量の追加） 2 反	繭生産 製 糸 製 織 染 色	岩手県南部養蚕農家 松岡(株) 美雲織物(株) (株)千總
（生産数量の追加） 山音株式会社 代表者名：山田純司 （担当者：山田佳史） 京都市中京区三条通室町西入衣棚町 41 Tel 075-221-3355 表示者登録番号 050	後染反物 （色無地） （変三越） （五越駒呂）	（数量の追加） 400 反 100 反	繭生産 製 糸 製 織 染 色	JA 多野藤岡管内養蚕農家 碓氷製糸農協 (有)両輪産業、小熊機業(有) (株)丸亀屋
（生産数量の追加） 織匠万勝 代表者名：前田章 （担当者：前田健） 京都市中京区姉小路通堀川東入る鍛冶町 173-1 Tel 075-257-5747 表示者登録番号 026	帯地 先染着尺 （訪問着）	（数量の追加） 300 本 150 反	繭生産 製 糸 染 色 製 織 自 社	JA 佐波伊勢崎養蚕連絡協議会養蚕農家 碓氷製糸農協 自 社
	後染着尺 （訪問着）	300 反	繭生産 製 糸 製 織 染 色	JA 佐波伊勢崎養蚕連絡協議会養蚕農家 碓氷製糸農協 自 社
（生産数量の追加） 株式会社坂本屋 代表者名：飯塚康二 （担当者：飯塚康二） 茨城県土浦市荒川沖西 2-12-3 Tel 0298-41-0007 表示者登録番号 005	胴裏絹 （ぐんま 200、 灰汁浸け加工）	（数量の追加） 120 枚	制作企画 蚕品種 繭生産 製 糸 製 織 精練加工	日本蚕糸絹業開発（協） ぐんま 200 群馬県内養蚕農家 碓氷製糸農協 丸進企業（株） (有)江島屋染工場
（生産数量の追加） 株式会社京扇 代表者名：鈴木康裕 （担当者：鈴木康裕） 東京都中央区東日本橋 3-6-6 パークビル 2F Tel 03-3249-6001 表示者登録番号 061	胴裏絹 （パールトーン加工）	（数量の追加） 600 枚	制作企画 繭生産 製 糸 製 織 精 練 加 工	日本蚕糸絹業開発（協） 群馬県内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株)カフト (有)江島屋染工場 (株)パールトーン
（製品の追加） 株式会社芦田呉服店 代表者名：芦田孝子 （担当者：芦田文雄） 京都府綾部市西町 1-46-2 Tel 0773-42-0033 表示者登録番号 148	（製品の追加） 後染反物 （小紋） （変一越） （紋意匠）	10 反 10 反	制作企画 繭生産 製 糸 製 織 染 色	田中種(株) JA 碓氷安中管内養蚕農家 碓氷製糸農協 南久ちりめん(株)、芝井(株) 高田勝(株)
（製品の追加） 合資会社車屋呉服店 代表者名：吉原清次郎 （担当者：吉原清次郎） 神奈川県横浜市南区大岡 2-21-13 Tel 045-731-6108 表示者登録番号 119	（製品の追加） 後染反物 （江戸小紋）	10 反	制作企画 繭生産 製 糸 製 織 染 色 意 匠	(株)丸上 茨城県南地域養蚕農家 碓氷製糸農協 (株)匠 (有)金田染工場 自 社

提携支援センターから

提携支援センター活動日誌No. 22 (H23.11.1 ～ H23.12.31)

年月日	活 動 内 容 等
23.11.8	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る打合せ（群馬県）
23.11.30 ～ 23.12.1	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明等（京都府）
23.12.9	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る打合せ（群馬県）
23.12.12	(社)日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)



12月12日開催の(社)日本絹業協会による
純国産絹マーク審査委員会

市制施行 90 年の群馬県桐生市で 盛大に “シルク・サミット” 開催

◆どうなるシルク、どうするシルク◆

—シルク・サミット 2011 in 桐生—
(平成 23 年 11 月 10 日～11 日)

参加者 200 名の盛況

蚕糸絹関係者及びその愛好者が一堂に会して、学びかつ互いの親交を深めるという全国規模のイベントが実は二つあった。

その一つ、長野県岡谷市で 63 年の長期間に亘って開催されていた「製糸夏期大学」は誠に残念ながら、一昨年の平成 20 年夏、各界の関係者に惜しまれつつ、幕を閉じることとなった。

現在、このような催しは、このシルク・サミットが唯一無二の存在となっている。

今年で第 12 回を迎える大会は、かつて“西の西陣、東の桐生”と謳われた、群馬県の絹の都、桐生市で開催された。

実はシルク・サミットは、その第 2 回が桐生市で開催されており、今回は 10 年ぶり第 2 回目の開催ということになる。この桐生市、今年で丁度市制施行 90 年ということで、市をあげての開催となり、その熱意が伝わったのか、参集人員は最近の大会を大幅に上回る、約 200 人という盛況ぶ

りで熱気溢れる大会となった。

今回のテーマは、「どうなるシルク、どうするシルク」。シルクを取り巻く現況と今後の可能性を探ろうというものだ。

シルク・サミットの第 1 日目は、大会主催者（（独）農業生物資源研究所、（財）大日本蚕糸会、桐生市）の挨拶に引き続いて、

- （1）基調講演
- （2）特別講演
- （3）活動事例報告
- （4）パネルディスカッション

の 4 本柱からなる、いわば座学ともいうべき、学習会であった。

- （1）基調講演

「蚕糸・絹業の現状と今後の展望」

（財）大日本蚕糸会会頭 高木 賢氏

冒頭、来年の第 13 回シルク・サミットについて触れ、来年が大日本蚕糸会の創立

120 年（明治 25 年創立）にあたり、東京・有楽町で式典を予定しているが、それと並列的に開催すべく調整中であることを明かし、「本日まで来場のみなさん、是非来年は、「有楽町で会いましょう」と笑いを誘ったが、本題に入ると厳しい話も出てくる。

その概要は以下のとおり。

みなさんご案内のとおり、蚕糸絹業はあらゆる分野で減少が続いている。

一部報道では、象徴的な話として、“皇后陛下が最後の養蚕家（皇后陛下は皇居で熱心に御養蚕をなされている。）” か、などという向きもあるが、日本一の養蚕県であるここ群馬県でも、吉井や安中方面を除くと、桑畑を見付けにくい状況になっている。

本年の繭生産見込量は全国で約 250 トン、これはきもの 5 万反分に相当する。国産織物の内の僅か 4 %、全絹製品に占める国産品の割合となると、コンマ以下の 0.7 % という数字になってしまう。

中国の繭、生糸がかなり安いので、中国産に押されて、日本の製糸、養蚕家は止めていかざるを得ないという図式である。

価格差がどの位かというと、日本の繭 1 キロは 2,000 円位、この繭 5.5 キロで生糸 1 キロが作れこれが 11,000 円、製糸の加工費最低 5,000 円でも 16,000 円、最近ロットが小さくなっているので、加工費を 7,000 円位とすると 18,000 円位が平均的な国産生糸価格。一方中国産は 5,000 円位で、国産生糸は 4 倍近く割高だから、まともでは勝負にならない。



高木大日本蚕糸会会頭

そこで平成 20 年から、川上（養蚕）から川下（絹製品販売店）まで一連の業態を一気通貫でグループ化して、中国には真似の出来ないような個性的で希少性のある絹製品で勝負していく仕組みをスタートさせた。

幸い多くの方々から高く評価される製品も生まれてきており、今後の展望が開けつつあるという状況だ。

この路線に従って 3 年が経過したが、現在 58 のグループで、全国の繭がいずれかのグループに入っており、100 % のカバー率だ。全国に広がる絹工房の方々も、碓氷製糸か山形の松岡製糸から生糸が手に入る仕組みになっている。

このグループ群は大きく次の 4 つのタイプに分類される。

（ア）先進的グループ（今回のグループ化の以前から、元々純国産絹製品づくりにこだわっていたグループ）

京都の老舗染め問屋、千總のグループは

高島屋とタイアップし、和装を取りまくこの厳しい環境化で、独自性のある「誰が袖好み」を展開している。

ここ地元桐生で絹洋装品のミラノリブ。裏絹がメインの日本蚕糸絹業協同組合と絹小沢。横浜のシルクスカーフとタイアップした富岡シルクブランド協議会・・・等々。

(イ) 地域のブランド品グループ

本場奄美大島のグループはこのたび、新たに5戸の養蚕農家を誕生させ、本場で繭から絹製品までを実現させる。群馬の繭を使った黄八丈のグループ、純国産繭にこだわった西陣帯のグループなどもこれに属する。

(ウ) 特徴ある繭を使った絹製品グループ

細くて丈夫、雄しか出来ない蚕品種プラチナボーイを使った、男物きものの銀座もとじグループ。本会の研究所が開発した、白繭細1号で結婚式の打掛「三煌」を展開する三越のグループ、等々。

(エ) 衣料以外の絹製品グループ

西川産業が扱う真綿布団のグループ、特徴ある蚕品種小石丸を使い絹糸弦を作るグループ、等々。

以上の純国産絹製品群を消費者に一目

で判別してもらうため、その生産履歴を明白にした、純国産絹マークを制定。現在、339の絹製品に貼付され、消費者の認知度も徐々に高まっている。

2009年のリーマンショック、2011年3月の大震災と、絹製品を取りまく環境は、極めて厳しいものがあり消費は伸び悩んでいるが、これは我が国産業構造全体の問題ともいえる。

今後の中国の動向、また新興国であるタイ、ベトナム、インド等の状況にも注意を払いつつ、純国産絹製品の消費拡大の手だてを探っていきたい。

(2) 特別講演

「遺伝子組換えカイコとその産業利用」

(独) 農業生物資源研究所昆虫科学研究領域 特任上級研究員 田村 俊樹氏

田村先生の講演は、スライドの画面を説明しながら行われたが、最先端理論と技術を駆使したテーマだけに、研究者から一般の絹愛好家まで幅広い聴衆にはその理解度は千差万別といったところか。

ここでは、先生のレジュメを中心に、その基本的な考え方を紹介したい。

遺伝子組換えカイコを作る技術が開発されて、10年余りになるが、遺伝子組換えカイコの産業利用には二つの方法がある。

一つはカイコの中部絹糸腺を用いた抗体や酵素などのタンパク質の生産である。



田村 俊樹氏

もう一つは、後部絹糸腺で作られるフィブロインの構造を変え、これまでにない新しいシルクを作る方法だ。

組換えカイコを作る技術は日本が中心となって開発され、また、カイコに関する科学は日本が一番優れているが、中国や米国、インドなどでも研究が進められている。

(ア) 遺伝子組換えカイコの産出

遺伝子組換えカイコは、2種類のDNAをカイコの卵に注射し、次世代のカイコをスクリーニングすることによって作られる。

この注射は産卵直後に行わなければならない、また注入には訓練を要すが、問題は、そのカイコを飼育し、きちんと系統化することにある。

(イ) 中部絹糸腺で

組換えタンパク質を生産

カイコがシルクタンパク質を作っている

るのは絹糸腺であり、シルクの本体であるフィブロインは後部絹糸腺で、それを取り巻くタンパク質であるセリシンは中部絹糸腺で作られる。そして、その割合はおよそ75%対25%の割合だ。大量のタンパク質を作るには後部絹糸腺が有利のように思われるが、ここで作られた組換えタンパク質は外部に繭糸として排出されにくく、中部絹糸腺で作られた組換えタンパク質は繭糸として排出され易いため、多くは中部絹糸腺で作られている。

その利用分野は、医療分野が圧倒的であるが、医薬品については、開発期間を含めた膨大な研究費、安全性の問題などハードルが高いため、同じ医療分野でも検査薬や動物医薬品としての開発に大きな期待が寄せられている。

新しいシルクの作出

遺伝子組換えカイコを作る技術が出来るまでは、カイコのシルクタンパク質の構造を変えることはできなかった。

この技術が確立されて以降、他の生物で作られたタンパク質をカイコのフィブロイン中に含ませることが出来るようになった。

現在、新しいシルクとして、最も研究が進んでいるのは、蛍光タンパク質の遺伝子を導入したシルクである。

クラゲやイソギンチャクなどから緑や赤、オレンジ、紫、黄色などのいろいろな色の蛍光タンパク質を抽出し、フィブロイ

ンと融合させた遺伝子を作り、絹糸腺で発現させると、蛍光を発するシルクを作ることができる。これは、衣料分野での利用がおおいに期待される場所。

また、細い織度のシルクを吐く遺伝子組換えカイコは産業利用できる可能性が高く、鋭意、実用化研究が進められている。

もともとシルクは医療材料として、手術用縫合糸での利用実績がある。また、人工血管や人工骨、人工皮膚、コンタクトレンズなどに利用できると考えられているが、これは、シルクの生体親和性が高いためである。遺伝子組換え技術を用いると、このシルクの生体親和性をさらに高めることができ、シルクの医療材料としての産業利用は、有望分野の一つといえる。

最後に、遺伝子組換えカイコの産業利用については、特定部位への遺伝子導入法などの基盤技術の充実を図るとともに、飼育システム、商品化などの過程をいろいろな立場の人が協力して、バランスよく進めていくことが重要である。

(3) 活動事例報告

①「カイコの飼育体験を通して」

社会福祉法人峰悠会おおぞら保育園
小林 真理子

かつては盛んだった当地区の養蚕も、今では養蚕農家は一軒といった状況。カイコを知らない子供達ばかりだ。



小林 真理子氏

そこで、保育園では園児全員がカイコの飼育に取り組むことに。日々成長するカイコの変化に対する子供らしい驚きが、小林先生の口から熱っぽく語られた。

園児達はさらに「日本絹の里」の見学や天蚕飼育にまで挑戦、総合学修の成果を十二分に上げている様子が紹介された。

②「自然が生み出す夢紡ぐ糸」

千美（せんみ）工房
松井 定夫

天然の草木染めに興味があった松井さんは、カイコの糞、特に天蚕の糞で染める「蚕沙染め」に挑戦したいとの思いで、天蚕飼育を始めたが、サラリーマンからの挑戦で分からないことだらけ。群馬県中之条の登坂昭夫氏に師事し、クヌギ畑の開墾、パイプハウスの設置と本格的になり、22年の5月には、37年勤めた会社を退職、退路を断っての天蚕飼育となった。



松井 定夫氏

今では黄緑色の光沢がまぶしい美しい天蚕糸ができるまでになった。ここ桐生の川内町で桐生独自の天蚕繭、そしてその天蚕の副産物（糞）で念願の「蚕沙染め」を世に出したいと意気込む松井さんである。

（４）パネルディスカッション

「クリエイターが語る桐生産地の未来」

パネリスト：

- 泉 太郎氏（泉織物有限会社）
- 大橋 賢吾氏（^{こばとう}小林当織物株式会社）
- 畠山 陽子氏（共立織物株式会社）
- 三田 修武氏（株式会社ミタショー）

コーディネーター

- 坂口 昌章氏（有限会社シナジープランニング）

坂口 桐生織物の総合プロデュースをさせてもらったご縁で司会をつとめるが、今日は新進気鋭のクリエイターにお集まりい

ただいているので、まずは、自己紹介を兼ねて、仕事に携わった経緯、今後の方向付けといったところを、ご披露いただきたい。

三田 桐生の服地機屋の三男で、四大を出たが、ファッション好きでヨウジヤマモトに入社、４年半くらい仕事をしたが、子供を授かり、三方を山に囲まれ中央に川が流れる桐生で伸び伸びと育てたいとの思いもあり、家業を継いだ。

畠山 主に婦人服地の企画とテキスタイルをやっている。秋田の出身で、ロンドンの大学を出て、そこで勤めた。桐生は繊維関係の全てがコンパクトにまとまっている感じが好きで、この地で仕事をさせてもらっている。

大橋 群馬県前橋の陶器屋の次男坊で、文化服装学院の３年在学中の作品が評価され、ヨシキヒシヌマに入社。その後、洋服やデザインよりも、生地そのものに興味を持ち、桐生織物の魅力に惹かれて小林当織物に勤務した。

泉 桐生の創業明治４０年の和装着尺機屋の長男。大学でアルミニウム合金学を学び隣町の大手金型メーカーに入ったが、クリエイティブな仕事への欲求が強く泉織物に入社。四代目を継いでいるが、まだまだ修行中だ。

坂口 全員が１回は、他の業種を経験し、

現在は桐生で繊維関係の仕事をしているというのがちょっと興味深い。もう少し仕事の内容を詳しく説明してほしい。

三田 服地を扱っていて、レディースが95%と婦人物に特化している。8割が国内向けで2割が輸出、輸出先はかつては米国、今は中国向けである。桐生の繊維産業の特徴は、各工程毎の分業が進んでいることにあるが、やはり高齢化の波が押し寄せている。それでも、お客さまの欲しいものが欲しいだけ手にはいるというのが桐生の繊維産業の一番の特徴になっている。

坂口 ここでオヤッと思うのは、世界の生産国ともいわれる中国が三田さんの所のモノを買うということだ。自国で1/5とか1/4の値段で出来るものを何故買うのか。

中国では1企業で3,000店舗などというとてもない規模で品質管理等が難しい。一方、日本製品はクオリティの高さは勿論、納期管理がしっかりしていることや、例えば染料一つとっても、欧米規準で安心だが、中国では規格外を使うこともあるようだ。

畠山 きちんとした技術を持っている現場の人達の高齢化が心配。最近の傾向として、各々の量のボリュームが小さく短納期になってきているので、きめ細かい対応が必要だ。ただ、桐生は個性を発揮できる素地がまだまだあるのが良い。

坂口 日本のアパレルの規模は、ユニク



向かって左から、坂口、泉、大橋、畠山、三田の各氏
口が800店舗、しまむらが1,000店舗と中規模展開で、大きくも小さくもない規模だ。

大橋 生地を生産し、国内で90%、10%がヨーロッパに行っている。中国は商売的には魅力的。作品をしっかりと作り込みたいが、納期がタイトで厳しいのが現状だ。

坂口 いま日本では、なかなか糸を作らなくなった。原料高の製品安が、影響しているのかもしれない。

泉 本日のパネラーで、私だけが和装。かつて、キモノは筆筒に向かって売っているともしわれた。いわば冠婚葬祭向け、他人向けだったが、昨今では、「自分が楽しむ、自分のためのキモノ」に戻りつつあるような気がする。着尺機屋は桐生では、私も1軒になってしまった。

坂口 西陣で昔は着尺といわれたのが、今、西陣といえば帯だ。単位当たり面積で

世界一高いのが日本のキモノといわれている。

三田 桐生の織物は分かり易いといわれる。織りの技術が和装から洋装に伝えられ、生地そのものが雄弁に語ってくれる。

坂口 国内外に桐生の織物の良さを伝えるには、見て触って感じてくれ、分かってくれの他力本願では駄目、きちんと文字で表現しないと。

畠山 織りはタテ糸、ヨコ糸が一本一本出来ない人はダメ。そういう人は、プリントやニットに行く。(笑)

私としては、苦労はしていても、その苦労が滲み出ないような、軽い感じの生地を作っていきたい。

泉 消費者の着心地が一番大切。週末のためのキモノを今後は提案していきたい。

坂口 ここ桐生で和装の総合プロデュースの仕事をしたが、キモノはキモノ屋、帯は帯屋の意識が強すぎるような気がした。一緒にモノ作りをしていく必要があると思う。例えば、三田さんや畠山さんは、日本人の美意識といったものを持っている。一方で、イタリア人はプレゼン上手、中国人は押しが強い。触れば分かるなんて、いうのは日本人の世界だけだ。先程も言ったが、きちんとその良さを言葉で説明し、アピールしていく努力が必要だと思う。

この辺で、みなさんに将来の夢を語っていただきましょう。

三田 行きつけのトコヤで70歳位の主が、何かの話の折りに「ボクは助平なもんだから」という、好奇心旺盛の意味で使われたのですが、全てにおいて積極的な生き方は、私も是非見習いたい。夢を描くのが、なかなか難しい業界にあって、アンテナを広く張り好奇心旺盛に新しい事にも取り組んでいきたい。また、技術は一度なくなってしまうと、二度と復活しない、ということだけは言っておきたい。

畠山 工場の若い技術者が家庭を支えられるような賃金が払える仕組みを作れたらと、切に思う。

大橋 会社に60年前からの生地見本が何万点も残されており、それぞれが素晴らしいテキスタイルだ。私の作品も是非その中に、たくさん入れていきたい。

泉 桐生で一人、機を織っている意味を噛みしめている毎日だが、2ヶ月ほど前に女子高生がキモノを作りたい、桐生で働きたいと訪ねてきた。今の環境では、貴方を雇えないと告げた時の虚しさ、くやしさを分かってもらえるだろうか。女子高生一人雇えない産業・・・大いに考えてしまう。

坂口 かつて、フランス、リヨンの産地が崩壊した。今、西陣もかなり厳しい。さて、

高級生地を作っている桐生だが、これを如何に外国人に分かりやすく伝えるか、その手段を見いだせずに低迷している。

モノが語るでは、外国人には通用しない。

泉 キモノは着慣れるととても気持ちが良い。会場のみなさんも、是非、普段着として、キモノを楽しんでいただきたい。絹は、ずっと日本人の歴史とともにあり、日本人ほど絹好きな民族はいないと確信している。

大橋 桐生の優れた製品で、世界を相手に舞台を広げていきたい。売る側の意見を大いに主張して行きたい。

三田 店先でジャカード織りの製品を見付けたら、是非、桐生産かどうか尋ねてみて欲しい。地道な草の根運動を展開していきたい。

畠山 食品と同じくらい、自分が着ているモノのルーツにもっと興味を持って欲しい。シルクは軽かったり、暖かかったり良いことが一杯あるが、コスト的になかなか使えない。

大橋 当社ではシルクの割合は多くて30%、少ないモノで7%くらいが多い。絹が入っていると売りやすいという人もいる。特にメンズではシルク混が人気で、ポリエステルやレーヨンとの生地が好まれている。

坂口 今、世界のファッションの主流は先進国では特に化合繊とシルクのような天然繊維との交織にトレンドが来ている。

中国等の資源国では、ふんだんにある天然繊維を使った、シルク100%でありカシミア100%の世界である。

そのどちらもある桐生から是非、世界に向けてその優位性を発信して行って欲しい。

【見学会】



桐生織塾を見学

サミット2日目は、3コースに分かれての現地見学会、その一つ「織物コース」は、・桐生織塾―天然染色研究所―(有)ミラノリブー(合)後藤をバスで巡回するコースで、他に「文化財コース」、「芸術コース」とあったが、一番人気があり、バスは満席であった。

蚕糸・絹業提携支援センター
野村郁治

シルク遺産を訪ねて②

入間市の旧石川組製糸が献堂した教会堂

東京産業考古学会

副会長 平井 東幸

「教会堂がシルク遺産とは何かの間違いでは」と思われるかもしれないが、れっきとしたシルク遺産である。というのは、この教会堂は、製糸会社の石川組製糸が土地を提供して礼拝堂を建て、地域伝道を行なうとともに女子従業員にも教会の礼拝に出席することをすすめた。現在は日本基督教団武蔵豊岡教会として現役である。500人が収容できるこの教会堂は会員によって大事に保存、修復、使用されてきていることに敬意を表したい。

前回紹介した西洋館は、現在は入間市が管理運営しているが、もとは地元の石川組製糸が商談の場にも使用する迎賓館として最盛期に建設した建物である。同社は従業員5千人を超える製糸会社としてわが国屈指の規模を誇っていた。この教会堂も敬虔なクリスチャンであった経営者が建てたもの。竣工は大正12（1923）年、木造モルタル平屋で、塔屋の尖塔は遠方からも望めて美しい。

主な見どころは以下の通り。

①設計は、米国人宣教師で建築家として著名なメレル・ヴォーリズ（1880年～1964年）であり、その建築事務所の設計になる建物は全国で約1000件、かなりが現存している。因みに都内では、千代田区神田の山の上ホテル等。



武蔵豊岡教会堂（外観）

撮影：筆者

②内部では、聖壇を囲む半円形の木製の柵は珍しく、デザインも美しい（写真参照）。

③天井が社寺仏閣のような格天井なのも珍しい。ヴォーリズの吹き抜けの設計を施主の意向で変更した由。

④教会堂敷地の奥には朽ちかけた建物がある。実はこれは酒蔵を改造して明治 28（1895）年に教会として献堂されたもので、その後現在の場所に移設された。関係者の説明によると、今の教会堂が出来てから 1988 年までは牧師館として使用されていた。おそらくこの地域では最古の教会堂であるようだ。



教会堂の内部

撮影；柚須紘一

この武蔵豊岡教会の建物は、文化財としては指定されていないが、所有者の同意が得られれば是非、例えば国の登録有形文化財に指定してもらいたいものである。その

理由としては①ヴォーリズの設計であること、② 90 年前の教会建築であり保存状態がよいことが挙げられる。

教会堂敷地に隣接する道路の拡張計画があるそうだが、これらの貴重な文化財を是非保存してくださるように関係者をお願いしたい。一度失われた物は二度と還らないからだ。

埼玉県入間市には、現在は茶産地として有名だが、これらの建物は、明治・大正・戦前昭和と養蚕・製糸業が地域の経済社会を大きく支えていたことを知るよすがになる。一度訪れてみてください。

なお、武蔵豊岡教会は一般的には外部からの見学になります。

■所在地：埼玉県入間市河原町 8－6

■電話：04-2962-6191

■アクセス：西武池袋線入間市駅北口から徒歩 5 分、前回で紹介した西洋館から徒歩数分

<訂正> 2011 年 11 月号（No.21）「埼玉県入間市の西洋館」の記事中、

■公開：毎月土曜と月曜に各 1 回を ■公開：不定期に訂正させていただきます。

ひらい とうこう

東京産業考古学会 副会長

嘉悦大学 元教授

日本化学繊維協会元調査部長

中国シルク産業の発展概況

—「国際シルクフォーラム」(2011年9月)で発表—

中国絲綢協會

秘書長 錢 有清

国際金融危機から2年経過した現在も世界経済は欧州債務問題や米国財政赤字により、先行き不透明感や不安定要素が払拭できず、回復が遅れている。シルク産業を含む世界の繊維産業では、綿花に代表される紡績原料価格の大変動が業界に不安定感を与えている。シルク生産大国として、中国はシルク産業の安定した経済活動を維持し、産業構造の調整・最適化を加速させることによって、世界のシルク産業発展の安定化に積極的に貢献している。

I. 中国シルク産業の現在における活動状況

中国政府による公共財政の活用により、過去2年間におけるシルク生産は基本的に安定しており、輸出は好転し、国内市場も活況を呈しており、シルク産業全体の経済活動は質・量ともに著しく向上している。

(I) シルク産業の安定成長

主要シルク製品の生産量は基本的に安定しており、中国国家統計局の報告によると、主要品目の2010年生産量は、第11

次5カ年計画の初期と同等のレベルであった。2010年の生糸生産量は11.5万トン(191万7千俵)、前年比4.55%減であった。2010年の絹織物生産量は7.74億メートルで、前年比0.64%増であった。シルク布団生産量は1,980万点、前年比17.49%増であった。

2011年1-6月期で比較すると、生糸生産量は5.3万トン(88万3千俵)で、前年同期比24%増であった。絹織物生産量は2.9億メートルで、前年同期比2.54%増、シルク布団生産量は1,206万点で前年同期比50.33%増であった。

中国国家統計局の資料によると、シルク関連企業3,534社の2010年の総生産額は1,959億元で、前年比17.8%増であった。営業収入は1,929億元で、前年比28.34%増、実現利潤額は76億元で前年比59.52%増であった。

第11次5カ年計画期間中の中国シルク産業の経済活動を総括すると、総生産額と実現利潤額は安定増加を示し、それぞれ2005年比で64.62%増及び228.7%増で、

図1 2005-2010年シルク工業における総生産額の推移

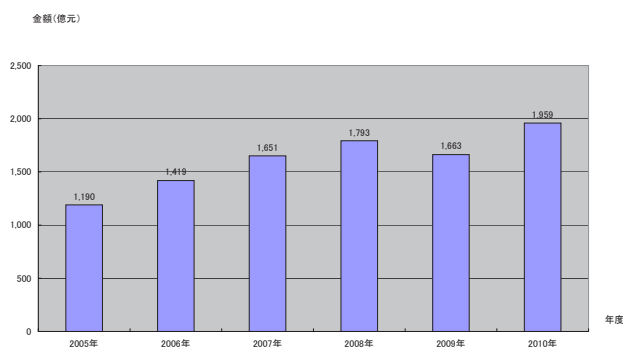


図2 2005-2010年シルク工業における実現利潤額の推移

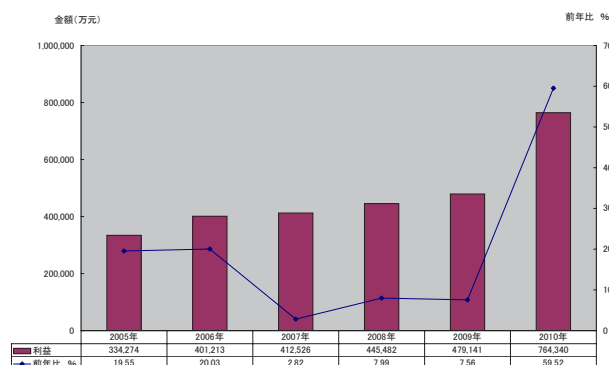


図3 2009年1月-2011年8月乾繭価格の推移

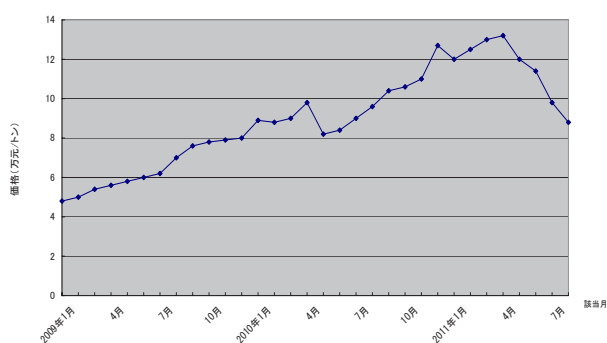
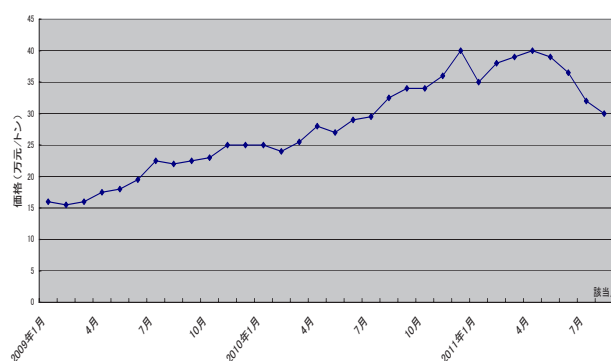


図4 2009年1月-2011年8月3A格生糸価格の推移



これらの年間成長率はそれぞれ 10.48% 増及び 18.0% 増であった。2011 年 1-6 月期で比較すると、総生産額は 931. 7 億円で前年同期比 26.91% 増、同実現利潤額は 36. 4 億円で前年同期比 41.38% 増であった。

(図 1、図 2 参照)

2009 年以降は各国の経済刺激政策の影響もあり、シルクの輸出市場は徐々に安定し回復しつつあり、さらに、世界的な農産物価格の急上昇の影響を受けて繭・生糸価格も上昇を続け、2011 年 4 月には乾繭価格 13. 06 万円／トン (130.6 元／キロ＝1,633 円／キロ)、生糸価格 40. 29 万円／トン (402.9 元／キロ＝5,036 円／キロ)

という歴史的な高値を記録した。その後、繭糸価格は小幅な値動きを繰り返した後、下降相に突入し、7 月に価格下落が加速した。2011 年 8 月末の乾繭及び生糸の価格はそれぞれ 8.68 万円／トン (86.8 元／キロ＝1,085 円／キロ) と 30.24 万円／トン (302.4 元／キロ＝3,780 円／キロ) まで下落し、同年 4 月比でそれぞれ 33.54% 減及び 24.94% 減であった。今年度の下半期以降の繭糸価格には大幅な下落が認められたが、これは繭糸品質に見合う価格帯に落ち着いたことと、先進国の債務問題や綿花を代表とする原料価格の低下が原因であるといえる。

製造工程コストの上昇、さらに労働力が

不足している現状ではシルク市場の基本的な局面には大きな変化を期待することはできない。万一、このまま繭糸価格が下落し続ける状況は、シルク産業の発展にとって好ましい状況とはいえず、シルク市場の価格変動を冷静に観測し、積極的な対応で繭糸価格の乱高下を避ける努力をしなければならない。

(図 3、図 4 参照)

(Ⅱ) シルク輸出貿易の底入れ反転

中国税関の統計によると、2010 年の純シルク商品輸出額は 33.1 億ドル、前年比 11.77% 増であった。

これの内訳として、蚕糸原料類輸出数量は 19,431 トン（32 万 4 千俵）で、前年比 13.07% 減、同輸出額は 6.5 億ドルで、前年比 24.42% 増であった。絹織物の輸出数量は 2.76 億メートル、前年比 3.69% 増、同輸出額は 10 億ドルで、前年比 28.03% 増であった。シルク製品の輸出額は 16.6 億ドルで前年比 0.11% 増であった。純シルク商品の輸出額は、2007-2009 年の 3 年間に連続下降を経験した後、徐々に回復し反転した。

2011 年 1-6 月期における純シルク商品輸出額は 14.45 億ドル、前年同期比 17.55% 増であった。蚕糸原料類の輸出は 7,266.7 トン（12 万 1 千俵）、前年同期比 3.55% 減で、同輸出額は 3.12 億ドルで、前年同期比 37.82% 増であった。このうち、生糸の輸出数量は 2,239 トン（3 万 7 千俵）

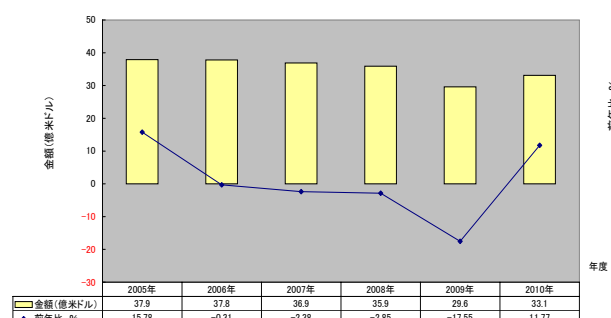
で、前年同期比 7.26% 減、同輸出額は 1.2 億ドル、前年同期比 44.03% 増であった。絹織物の輸出数量は 8,996 万メートル、前年同期比 16.06% 減、同輸出額は 4.28 億ドル、前年同期比 18.05% 増であった。シルク服装とシルク製品の輸出額は 7.04 億ドル、前年同期比 10.09% 増で、この中のシルク服装の輸出数量は 1.35 億点で前年同期比 320.99% 増、同輸出額は 4.73 億ドル、前年同期比 8.09% 増であった。以上のように、蚕糸原料類のような原料関係の輸出価格は上昇しているが、輸出数量は減少している。一方、シルク服装では輸出数量は明らかに増加傾向にあるが、価格ではそれほど伸びは認められない。

(図 5 参照)

(Ⅲ) 国内シルク消費は引き続き増加傾向

中国における徹底した内需拡大戦略により、国内のシルク市場が成長し、シルク製品の国内販売は好況である。シルクと羊毛、綿、ビスコースなどとの混紡・混織織物が現在の市場では主流であり、国際的に有名な衣料ブランドにも一部使用されている。また、シルクインテリアは、今まさに発展

図 5 2005-2010 年純シルク商品の輸出状況



途上にあり、その勢いは衰えを知るところなく、特にシルク布団消費は引き続き良好であり、業界の中で例えば浙江省の達利絲綢（浙江）有限公司、絲綢之路控股絲綢公司、江蘇省の鑫源絲綢有限公司、江蘇泗絹有限公司、遼寧絲綢科技公司、永発集团公司、四川依格尔有限公司等の企業は、シルクインテリア取扱企業として大いに発展するところとなり、一方、国内外のいくつかの著名なインテリアブランド企業、例えば羅莱有限公司、夢結有限公司等は、既に高品位なシルクインテリアを重点的に生産しており、ともども中国シルク産業において牽引的な役割を果たしている。

シルクのマーケティング方法も常に刷新・改善され、江蘇省蘇豪集团公司、浙江省達利絲綢集团公司、浙江絲綢之路集团公司等の一連の大型企業集団は、ブティック形式、規模大型化、あるいは高級感や国際感覚を採用した店舗の展開を図っている。また、販売拠点を数多く備えた企業はフランチャイズやチェーン店を展開したり、オンライン市場を活用する企業、大規模な卸売市場を整備する企業なども出現している。このような新たなマーケティング方法やネットワーク構築が国内のシルク消費の拡大に貢献している。

ブランドシルクの販売も拡大を続けており、中国で唯一の認定ブランドである高級絹マーク付き絹製品が市場へ出回る機会が増し、徐々にその知名度を高めるところとなり、現在 31 企業がこの認定ブランドの使用許諾を得ている。（別記参照）その内

5 社が 2010 年上海万博において販売許可を得る栄誉に浴しており、この高級絹マーク製品の総販売額は、現在 25 億元前後に達している。例えば、「淘宝网」^{タオバオワン}（2003 年設立された中国ショッピングの web サイトでアジア最大のネット通販といわれている。）による今年の嘉欣絲綢集团公司（高級絹マークの使用許諾者）の同マーク認定シルク製品の販売額は、月平均 100 万元を越えるところとなっている。このように、中国国内のシルク需要の増加は、中国シルク産業の海外市場への依存度を低下させ、輸出市場における価格変動の影響緩和やシルク市場のリスク回避能力を高めている。正確な統計ではないが、現在の国内市場向け絹販売シェアは、2005 年当時の 20% 未満からこれまでの約 35% に増加し、その増加傾向は毎年続いている。

（Ⅳ）持続的な技術水準の進展

近年、中国におけるシルク産業の技術レベルは、技術研究や開発力に重点を置くことで成長を続けている。ファッショナブルで機能的なシルク製品の開発、色彩やデザインの高級化、さらに付加価値も高められている。例えば、杭州金富春集团公司が開発した伸縮性繊維を用いた絹布や江蘇華佳投資集团公司の開発した中空伸縮性繊維を用いた絹布などによって、着心地性能や耐洗濯性が大幅に向上した絹製品が開発されており、高級下着、フォーマルドレス、カジュアル衣料分野で利用されている。

電子技術や情報技術といった先端科学技

術を駆使して、シャトルレスの広幅織機、精密な4色刷りプリント技術、デジタルインクスプレー（インクジェット）技術、コンピューターによる配色技術などが既に絹織物等の染色の現場で活用されている。例えば四川南充依格尔有限公司が開発した広幅、高経密度ジャガード織絹布製品は、国内のみならず国際的な知名度を有する商品となっており、また、杭州喜得宝集团公司はフロー方式を採用した染色技術によって染浴比を減らし、製造コストを30%以上削減させており、浙江華泰絲綢有限公司が開発したプリント技術のように、プリント染料のロスを大幅に低下させ同時に廃液の削減にも成功している企業もある。

繰糸工程においても多種類の污水处理技術が応用され、製糸用水の再利用の他、熱の回収技術も研究され、製糸用水では95%、熱においては70%の再利用を達成し、省エネ・廃液排出削減に貢献している企業があり、この方面では、山東泰安百川水業科技有限公司が当初から手掛けており、現在、この技術は13省市の100近い企業において採用されている。

最近では、産学協同による蚕糸副産物の開発研究が進められ、蚕糸副産物の有効利用やリサイクルが検討されており、例えば、桑の枝条、葉及び実の活用、食用蚕蛹、人工絹皮膚など食品、医薬、化学、農業、化粧品及び食品素材の各分野において産業レベルでの応用が検討されている。このような資源利用によって、養蚕農家や企業の収入が増加し、シルク産業における資源利用

効率が增加するとともに、資源リサイクルによって環境保護にも貢献している。

生糸電子検査の分野では、その国際規格化について大きな進展がみられる。中国は生糸電子検査方法について2009年10月に国際規格化することをISOに提案し、中国の他に日本、韓国、インド、イタリア、スイス、フランス、ドイツおよびケニアの8カ国から専門家が加わり、翌年の4月に反対票なしで本提案が認められた。提案通過後、中国商務部の指導のもと全国絲綢標準化委員会を中心に作業部会を立ち上げ、規格化作業を進めてきた。

2010年7月14日、杭州にて生糸電子検査方法の国際規格に関する第1回国際会議を開催し、各国からの専門家から同意が得られ、国際規格化に必要な基盤を整備した。その後、十分な実験とデータ解析をもとに、第2回会議をイタリアのコモで開催し、WD（ワーキングドラフト）段階でも参加各国の専門家からの賛同を得た。ISOの定める7段階の作業工程のうち、既に3段階まで完了し、現在は4段階への移行に向けた準備を進めている。

(V) 中国シルク文化の影響力強化

中国のシルク文化は、数千年の歴史があり、最近における中国の国力の増大と人民の生活水準向上のもとで、中国文化の精髓として継承され発展している。最近では、浙江嘉興シルク博物館、桐郷蚕糸娘娘館、四川シルク博物館、広東順徳海上シルクロード博物館及び江蘇無錫中国シルク博物館

が相次ぎ完成し、次いで江蘇海安市の中国シルク科技博物館、蘇州市の中国シルク科技文化博覧センター及び浙江海寧シルク一条街等も相次いで完成が予定されており、これらは展示だけでなく教育、観光、レジャー施設を兼ねるものであり、シルク文化が産業の中で逐次形成されつつあり、シルク文化の普及に貢献している。

また、綴れ錦、広東産伝統織物（夏の中国服の素材）及び刺繍など一連の民間に伝わってきた特徴あるシルク織物は、伝統工芸技術、無形文化財として継承と保護が進められている。2009年の9月には、中国シルク博物館が先頭に立って申請した「中国絹織物技術」がユネスコの「人類の無形文化遺産」として登録されると共に、浙江省の杭州、嘉興と湖州、江蘇の蘇州及び四川の成都の3省5市のシルク産地が中国5000年の歴史を有する文化遺産としてシルク文化保護地域指定された。

2010年の上海万博では、中国が主催する「南京雲錦（昔からの高級錦織り）の伝承、保護、発展」と題して中国雲錦の世界フォーラムが開催され、内外合わせて100名以上の専門家が参集し、ここでの上海宣言により世界雲錦デーが制定された。中国の錦織りとその織り技術が人類の文明化に深い影響力を与えたことが改めて認識された。

国内のみならず、世界中の人々に中国シルクの歴史文化を理解してもらうために、江蘇蘇豪集团公司では、百萬元を投資して記録史の編纂や、ドキュメント番組「シル

クを旅する (Travel of Silk)」の制作放映を自発的に行っている。また、浙江万事利集团公司では、清華大学との共同で初めて中国シルク文化研究所を設立し、シルクの文化的要素をシルク製品に取り込み、シルク文化の影響力で消費を拡大し、企業ブランドの販売促進を図っている。

さらに、浙江達利集团公司及び江蘇華佳集团公司では、シルク文化を生産現場にも反映させ、企業文化の向上に努めている。中国のシルク文化の継承と発展により、中国独自の特色を活かし、伝統的文化を製品コンセプトの核心部に取り入れた自主ブランドが形成されつつある。

II. 中国シルク産業発展における当面の諸問題

シルク産業は、これまで国際金融危機及び自然災害による悪影響を乗り越えて安定成長しているものの、次期の第12次5カ年計画において依然として幾多の試練に直面することが予想される。

一つには、外部環境には多くの不確定要素が存在するからである。主要先進国における経済の回復度合いは未だ不安定であり、失業率も依然として高く、欧州債務危機も存在し、国際消費市場は根本的に好転しておらず、世界経済回復の先行きには不透明な要素が多い。

一方、国内では、マクロ経済が構造的な調整に直面しており、インフレ対策や貨幣流動性の低下対策のために、中央銀行は度重なるデフレ政策を実施している。そのため、企業は資金融資が困難になるなどシル

ク関連企業の経営にも直接的な影響が及んでいる。さらに、都市化の加速により、労働力不足や電力不足への対応が厳しい状況にあり、このような状況では企業の経営圧力や経営リスクが高まっている。

二つめは、研究開発やデザイン部門でデザイン関連の人材が不足しており、人材教育、チーム構築、技術蓄積が依然として不十分であることが、研究開発のレベルを未だに低い位置に留めさせている。現在生産されている新機能や高い技術を集積した絹や他繊維との混織は、市場の要求を満たしているとはいえない。製品デザインや色は時代遅れで単純であるため、消費者層の幅を広げられず、シルクの消費拡大の妨げとなっている。

三つめは、自主ブランド開発が遅く、そのブランド影響力の低下である。企業規模は小さく、競争力も弱い。自社ブランドへの投資も限られ、ブランド製品が占める販売割合も低い。既に流通しているブランドの国際的知名度は低く、大半は OEM 生産に依存しており、国際市場への拠点進出も不十分である。

四つめは、工業技術や設備改良が遅れ、プリント、染色、加工などの工業技術が十分なレベルにまで達成しておらず、特に染色堅牢度等の指標値は海外企業のレベルに及ばない。自動繰糸機の導入率は高くなったものの、技術的な知識の普及が遅れている。労働力は強いにもかかわらず生産効率は低い。省エネや環境保護に関しては、基幹となる技術や設備が十分に発達していな

いため、省エネ対策や排出削減対策については引き続き重要課題として取り組まなければならない。

Ⅲ. 第 12 次 5 カ年計画におけるシルク産業の重点的発展に向けた提案

第 12 次 5 カ年計画期は、中国のシルク産業が「シルク大国」から「シルク強国」へ変貌を遂げるための重要な時期にあたる。産業構造の最適化、ブランド構築の促進、競争力強化が中国のシルク産業には必要であり、技術革新や絹文化を基盤とする第 12 次 5 カ年計画に沿って安定成長するために以下のような目標を掲げている。

(I) 近代養蚕の発展と産業の基礎固め

現在の高品質繭生産基地を増強し、生産地の標準レベルを高めるとともに、規模の均一化を図る。桑や蚕種品質の改良に関する基礎研究を強化し、桑園管理、稚蚕共同飼育、壮蚕飼育、病虫害総合防除、格子簇（格子状の簇で、日本の回転簇と形状は似ている。）の普及及び繭乾燥の省エネ化などの技術を高度化して繭品質を高める。桑園については、密植栽培や多角的な生産を奨励し、養蚕経済の発展、養蚕農家の収入源の拡大に貢献する。また、環境にやさしい養蚕と観光農園の双方向的な発展を模索し、養蚕生産性の向上と安定収入を図り、産業の基盤を固める。

(Ⅱ) 産業地区の構造調整の促進と産業構造の合理化

中西部については、引き続き養蚕地区の基礎整備を強化するとともに、同地域における貿易や投資環境を調整し最適化を図る。一方、東部の養蚕・製糸・絹織物の資源については中西部への移転を指導し、東部における資金、技術、人材面などを有効活用して、中西部の産業構造の調整と最適化を促進する。一方、東部沿岸部では産業クラスター化を推進し、シルク工業団地や特色ある生産基地を担い手としてシルク産業が統合して発展する道を進め、シルク産業の集約水準と競争力を高める。伝統的なシルク文化をもつ一部の生産地においては民間資本を活用してシルク文化と販売活動が一体となった国際的なシルク都市の開発を進め、強大で精選されたシルク産業を目指すとともに、優位性や産地ごとの特色を活かし、東部と中西部が調和的に発展できる新しいシルク産業構造の構築を進めていくこととする。

(Ⅳ) 設備の向上をもって技術レベルの向上を図る

企業を主体とした産学共同による技術革新を推進し、基幹技術の強化と設備改善能力を高める。自動繰糸機や省エネ型のシルクプリント加工新設備の開発と導入を進め、国内で信頼度の高い先端設備を整備する。デザイン、製造及び経営関連部門では、情報技術を発展させる。また、シルク加工においては技術を製品に施し、品質向上に反映させる。クリーンなシルク製造を促進し、省エネ、排出物削減に務め、再生・持

続可能な産業構造への転換を図る。

(Ⅳ) 自社ブランドの育成促進と国内シルク消費の拡大

ブランド育成に適した環境整備とブランド開発の戦略を強化する。国内評価が高く、かつ国際競争力のある企業ブランドを育成し、シルクブランドの付加価値を高める。また、ブランドの保証制度や認定基準の技術的な改善も進め、高級絹マークの普及を促進する。インターネットやブティックの活用、展示会など新しいマーケティングを活用してシルク市場への参入機会を促進し、国内市場の規模拡大を図る。また、国内市場におけるブランドシルクの優位性を積極的に活用して、国内市場を成長させる。消費レベルに合わせて、グレードや付加価値の異なる多様な絹製品を製造して新たな消費者を開拓し、国内市場におけるシルク消費を拡大していく。

(Ⅴ) 国際協調による世界のシルク市場の安定発展化

生糸電子検査方法のISO認定に向けて、日本、韓国、インド、イタリア、スイス、フランス、ドイツ、ケニア、その他各国専門家との協力態勢で作業を継続する。また、中国国際シルク博覧会および国際シルクフォーラムの開催を継続し、海外の絹業界との情報・人的交流を進める。国際的に有名な展示会を通して海外展開する有力企業への支援を行っていく。海外市場への展開に備えた生産・販売拠点を整え、国内企業の

競争力強化に努める。各国の政府機関および業界組織団体間の交流機会を設け、生産やマーケティング部門において多角的な対話を通じて、経済の正常化と貿易秩序を

保ち、世界のシルク産業の発展を推進していく。

Qian You qing

中国絲綢協会 秘書長

別記 中国高級シルクマーク取得・使用企業名簿

2011年9月現在

No.	企 業 名	備考(所在地)
1	安徽京九股份公司	(安徽)
2	北京怡蓮礼業科技発展公司	(北京)
3	達利絲綢(浙江)有限公司	(浙江)
4	湖北夢絲家綠色保陰制品有限公司	(湖北)
5	杭州紅繩紡織品有限公司	(浙江)
6	杭州江寧絲綢制衣有限公司	(浙江)
7	杭州喜得宝集团有限公司	(浙江)
8	湖州翔順工貿有限公司	(浙江)
9	金富春集团有限公司	(浙江)
10	江蘇華佳投資集团有限公司	(江蘇)
11	江蘇玖久絲綢股份有限公司	(江蘇)
12	江蘇蘇豪国际集团股份有限公司	(江蘇)
13	江蘇泗絹集团有限公司	(江蘇)
14	江蘇相府絲綢有限公司	(江蘇)
15	江西省綠冬絲科実業有限責任公司	(江西)
16	四川南充六合(集团)有限責任公司	(四川)
17	四川依格尔紡織品有限公司	(四川)
18	絲綢之路控股集团有限公司	(浙江)
19	上海絲綢集团股份有限公司	(上海)
20	上海真絲商厦有限公司	(上海)
21	山西吉利尔絲綢股份有限公司	(山西)
22	鉄岭市永発繭産品有限公司	(遼寧)
23	吳江市鼎盛絲綢有限公司	(江蘇)
24	万事利集团有限公司	(浙江)
25	鑫縁繭絲綢集团股份有限公司	(江蘇)
26	営口郎時多絲綢有限責任公司	(遼寧)
27	浙江湖州梅月針織有限公司	(浙江)
28	浙江金達創業股份有限公司	(浙江)
29	浙江嘉欣絲綢股份有限公司	(浙江)
30	浙江凱喜雅国际股份有限公司	(浙江)
31	浙江米賽絲綢有限公司	(浙江)

国内産地情報

絹織物産地の概況（11月）

各産地の生産は集散地からの注文が少なく
依然として厳しい状況が続いている

<原糸>

原料手当は、中国の原料が徐々に安定した価格になりつつあるが、織物の荷動きが鈍いため、必要な物だけの手当であった。織物の販売が不振で不透明な状況の下、仕入れは慎重な対応となっており、在庫は減少ぎみである。

<白生地>

- ・縮緬＝丹後の11月の生産は、前年比83%となり、稼動日数は21日と前年より1日少ない。環境悪の状況から生産量は減少が続いている。
- ・長浜の生産は、前年比86%となり、相変わらず厳しい状況が続いている。稼動日数は18日で前年と同数である。売行きは集散地からの注文の動きが鈍い。
- ・五泉は、生産反数は6.4%の減産となった。全体に荷動きが悪い。
- ・福島は、引き続き受注減少等に伴い、生産量は若干落ちている。
- ・石川は、加賀友禅ファンクラブによる着装会が東京の六本木で開かれ需要増進を図っている。
- ・福井は、小幅羽二重は輸入品の値段が下がっている。
- ・群馬・埼玉は、群馬、埼玉とも昨年実績とほぼ同じで、この時期にしては健闘している。

<先染織物>

- ・帯＝西陣は、値頃品を中心に生産量が維持されている。売行きは荷動き自体はあるものの浮き出しの商品が多く、苦戦している。
- ・博多は、紋織系においては袋帯が前年比57%と増えているが、全般的に悪く、平織系についても全般的に低調であるが、在庫が増えているのは来春の織込みをしている為である。
- ・十日町は、売行きは全体的に伸び悩んでおり、振袖だけが伸びている。
- ・米沢は、織物の生産は、呉服の企画商品の一部で生産が伸びる状況も見られる。袴、オシャレ帯等に荷動きは感じられる。しかし、輸出物の状況は変化が無ければ受注は難しい。
- ・山梨は、ネクタイは前年の半分の生産である。服地も小売りでの動きは鈍く必然的に減少している。
- ・西陣のネクタイは、企画提案が出来る一部のメーカーには発注が入ってきている。来春物に関しては、12月納めの物で終わるので、今後が懸念される。

（11 / 1 ～ 11 / 30 の概要）

＊（社）日本生糸問屋協会「月報」23.12.12 第754号による。

海外シルク情報

中国

最近の中国シルクの輸出事情

最新の中国税関統計によれば、本年度1～7月累計のシルク商品輸出状況は、総輸出金額20.84億ドルで対前年比16.4%を記録した。金額ベースでの輸出市場別に見ると、インド向けだけが若干減少（前年比約3%減少）し、その他向け市場は、軒並み前年比増加となっている。

金額順に見ると、中国シルクの五大輸出市場は、アメリカ、インド、イタリア、日本、香港であり、この中で日本向けは最も増加し前年比25%増加している。

この日本向け好調の原因は、生糸などの原糸類と白生地などの未加工織物の輸出価格が、この間、以前に比べて大幅に上昇したことによる。この五大市場が全輸出額に占める割合は58%を占め、トップのアメリカ向けは主にシルク衣料が輸出され約20%を占めている。

輸出品目別に見ると、生糸など蚕糸原料類の輸出数量は9,841トン（16万4千俵）で前年比8%減少、輸出金額では4.2億ドルで前年比37%増、絹織物についても同様に数量は約18%減少、金額は17%増加となり、原料と織物関係の輸出単価が高いことに支えられていることが分かる。

この点、8月以降国内生糸価格が大幅に下落してその後、政府による生糸買い入れが発動されたことから、輸出価格がこの間のように高価格を維持するのは不可能であり、今後の中国シルク輸出には黒雲が漂っているといえよう。

注）元の円換算レートは、1元＝13円。

国家備蓄制度による生糸買上げ入札状況

○これまでの経過

既報のとおり、9月9日付け政府（国家繭絲綢弁公室）による生糸買上げ公告が発表され、9月26日午後4時までに42者の入札参加有資格者（製糸業者、シルク加工業者）がこの買上入札に応札し、9月28日付けをもって政府は今回の入札結果（落札状況）を次のとおり公表した。

○公表結果概要

1. 今回の入札予定価格

全応札者の平均入札価格は、328.42 元/kg (4,023 円/kg) であり、これを現在の生糸時価とみなし入札予定価格とし、同価格以下の最高入札価格を申込荷口の落札価格とした。

2. 最高落札価格

最高落札価格は、328 元/kg (4,018 円/kg)。最低落札価格は、302.95 元/kg (3,711 円/kg) である。

3. 応札数量

入札対象（買上予定）数量は 56 荷口（16,800 俵）の中で、落札数量は 54 荷口（16,200 俵）となり、2 荷口（600 俵）は不落札。

4. 落札業者数

今回の落札上限の 3 荷口（900 俵）落札業者は 7 社、2 荷口（600 俵）落札業者数は 7 社、1 荷口（300 俵）落札業者は 19 社で、計 33 社が 54 荷口の 16,200 俵を落札した。

なお、落札 54 荷口中、28 荷口（全体の 52%）が広西自治区業者、次いで浙江省と安徽省の業者が各々 7 荷口（13%）を占めているのが今回の落札の特徴である。

5. その後の経過

落札業者は、10 月 10 日までに今回の買上実施機関（政府の委託機関）の中机国際招標公司との間に生糸売買契約を締結し、同日から起算して 45 営業日の 12 月 9 日までに、買上契約生糸を国家備蓄指定倉庫に搬入することで、今回の国家生糸買上げ工作は終了する

（注）円換算は 1 元 12.25 円。

＊（社）日本生糸問屋協会「月報」23.11.11 第 753 号及び 23.12.12 第 754 号による。

絹織物・絹製品の輸出

シルク博物館

元部長 小 泉 勝 夫

1 開港当初の乏しい技術力

鎖国を行っていたわが国は、横浜開港（1859年）によって諸国と貿易を始めました。

しかし、わが国は欧米のように産業が発達していませんでしたので、開港当初の輸出品といえば、生糸、お茶、銅など半製品のものが主でした。

これら開港当初の輸出品の中で飛び抜けて輸出額の多かったものは、すでに述べてきましたように生糸でした。生糸に次いで

輸出したものがお茶でした。

横浜開港当初の絹織物や絹製品（以下、絹物類という）は、手作業で製織・製品化する時代でしたので、わずかな量の手巾（ハンカチーフ）などが輸出されるぐらいでした。

絹物類が輸出品として外貨を稼ぐようになったのは、第22表に示しましたように、開港から20数年たった明治10年代後半ごろからのことでした。

この絹物類の中では、第23表からも分かりますように、当初、手巾が主要な輸出品でした。この手巾の生産が盛んになりだ

第22表 絹物類輸出額の輸出総額に占める割合

年 次	輸出総額 (A)	絹物類輸出額 (B)	B/A × 100
明治 11	25,988 千円	5 千円	0.0
〃 13	28,395	58	0.2
〃 15	37,721	95	0.3
〃 17	33,871	165	0.5
〃 19	48,876	783	1.6
〃 21	65,705	1,690	2.6
〃 23	56,603	3,867	6.8
〃 25	91,102	8,276	9.1
〃 27	113,246	13,042	11.5
〃 29	117,842	12,621	10.7
〃 31	165,753	16,875	10.2
〃 33	204,429	23,720	11.6
〃 35	258,303	31,801	12.3
〃 37	319,260	44,472	13.9
〃 39	423,754	42,496	10.0
〃 41	378,245	34,971	9.2
〃 43	458,428	38,843	8.5
大正元	526,981	36,440	6.9

出典：「横浜市史第四巻上」から抜粋作表

第23表 絹物類輸出額に占める手巾輸出額割合

年 次	絹物類輸出総額 (A)	うち絹製手巾輸出額 (B)	B/A × 100
明治 20	1,481 千円	1,146 千円	77.4
〃 21	1,690	1,233	73.0
〃 23	3,867	2,516	65.1
〃 25	8,276	3,494	42.2
〃 27	13,042	3,628	27.8
〃 29	12,621	4,617	36.6
〃 31	16,875	3,555	21.1
〃 33	23,720	4,318	18.2
〃 35	31,801	3,154	9.9
〃 37	44,472	4,699	10.6
〃 39	42,496	5,622	13.2
〃 41	34,971	3,905	11.2
〃 43	38,843	4,861	12.5
大正元	36,440	4,711	12.9

出典：「横浜市史第四巻上」から抜粋作表



(写真 32) 明治時代の手巾 (複製)
「S. SHOBEY Silk Store Yokohama Japan」
(椎野正兵衛デザイン帳) より複製
椎野秀聰氏複製・所蔵

すと、織物業界に活気が見られるようになりました。

1887 (明治 20) 年 7 月 14 日付けの郵便報知新聞には「織物の繁昌」と題して「桐生足利を始め各所の織物ハ 近來外国向きのハンケチーフを織出す為め 非常の繁昌にて 別に注文を受けざるも 織上り次第荷主が待構へ居りて買ひ行く有様なり 且つ 日本織物は是迄年々織出しを扣へ目にせし処 本年は捌け口頗る宜き故かたかた何れの織場にても職人を増やして盛んに織出す由」と織物産地が非常に繁昌している様子を報道しています。

この手巾輸出も明治 20 年代半ばまでで、その後は第 24 表に示しましたように、羽二重の輸出が圧倒的に多くなり、大正中期の縮緬やポンジーなどの輸出が増大するまで続きました。

手巾や羽二重は、生糸と同様にほとんど全てが、横浜港から輸出されていきました。

手巾は、すでに述べましたように横浜が

産地でしたが、羽二重は群馬・福井・石川・福島・栃木・新潟・富山などの諸県で生産され、横浜に運び込まれ、海外へ輸出されていきました。

羽二重の生産量は、当初、群馬県の織物産地桐生が第 1 位でした。

ところが、桐生から技術導入をした福井は、1892 (明治 25) 年から先進地の群馬を抜いてトップに躍り出し、1894 (明治 27) 年には、全国総生産量の 60% を占めるまでの勢いで発展をしていきました。

羽二重の輸出先についてみると、はじめのころはフランス、アメリカの 2 国が中心でしたが、イギリスへも輸出されるようになり、明治 30 年代後半からは、インド、オーストラリア、ドイツ、カナダなどの諸国へも輸出先を広げていきました。

こうして絹物類の輸出は、お茶をも抜いて、生糸に続く第 2 位の座へと伸びていきました。

第 24 表 絹物類輸出額に占める羽二重輸出額割合

年 次	絹物類 輸出総額 (A)	うち羽二重 輸出額 (B)	B/A × 100
明治 20	1,481 千円	…千円	…
" 21	1,690	…	…
" 23	3,867	818	21.2
" 25	8,276	4,030	48.7
" 27	13,042	7,254	55.6
" 29	12,621	7,052	55.9
" 31	16,875	12,055	71.4
" 33	23,720	17,436	73.5
" 35	31,801	24,685	77.6
" 37	44,472	37,546	84.4
" 39	42,496	32,768	77.1
" 41	34,971	28,067	80.3
" 43	38,843	28,985	74.6
大正元	36,440	26,882	73.8

出典：「横浜市史第四巻上」から抜粋作表

イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催期間	場所・主催者
○日本絹の里 特別企画展 「辻村寿三郎」 人形展 (第5回)	着物の古布を用いて独自の人形を創作する世界的にも有名な人形師、辻村寿三郎の新作を中心とした展示会です。 観覧料：一般400円 大高生250円 中学生以下無料	平成24年 1月21日(土) ～3月5日(月) AM9:30～PM5:00 (火曜日、休館)	会場・主催 群馬県立 「日本絹の里」 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel. 027-360-6300
○試作竹箴(おさ)と 織布展 (第7回) —甦らせるぞ・ 竹箴(おさ)—	・開催主旨 現在、竹箴研究会は芸術文化振興基金から文化庁直接の応援に移行しつつあり、その期待度の大きさを感じつつ日々の研修を重ねております。23年度も第6回、第7回の「試作竹箴(おさ)と織布展」を昨年同様、横浜・シルク博物館と竹箴羽の故郷・岐阜県瑞穂市で開催いたします。 竹箴の現状と多くのみなさまに織っていただいた織布も合わせてご覧いただきたいと思えます。 竹箴研究会 会長 下村 輝	平成24年 2月24日(金) ～26日(日)	会場・主催 「岐阜県瑞穂市 総合センター」 〒501-0222 岐阜県瑞穂市 別府1283 Tel. 058-327-7588 ・日本竹箴技術保存研究会(竹箴研究会) 〒615-0816 京都市右京区西京極 東町18 Tel. 075-313-1348

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 23 年 10 月 31 日現在

表示者登録番号	企 業 名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染反物（訪問着、付下、色無地、振袖、喪服、黒留袖）、裏絹（胴裏）
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、帯地（染帯）
3	有限会社 ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカーフ、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
4	株式会社 丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、帯地（後染）
5	株式会社 坂本屋	後染反物（色無地）、裏絹（胴裏（灰汁浸け加工））
6	有限会社 平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社 信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社 きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社 上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社 銀座もとじ	白生地、後染反物、先染反物（大島紬、結城紬、染織作家作品、御召）、八掛、和装小物（帯締、羽織紐）、帯地
12	河瀬満織物 株式会社	帯地（先染）
13	有限会社 織匠小平	帯地（先染）
14	門倉メリヤス 株式会社	洋装品（紳士靴下、ジャケット、セーター、カーディガン、パンツ、スカート、帽子）
15	株式会社 結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	有限会社 絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社 琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）、帯地（後染）
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	白生地（世紀 21）、後染反物（作家もの、黒紋付）、裏絹（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200（灰汁浸加工、トルマリン加工）、五ツ星（ぐんま 200、よろこび、世紀 21））、八掛、比翼地、長襦袢地、和装小物（襦袢、寝衣（うぶ着、おくるみ）、帯地（うるし糸 5%以上）
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21 世紀の絹を考える会	後染反物（色無地、訪問着）、帯地（袋帯（草木染、唐織、先染））
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、洋装品（マフラー）
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠 万勝	帯地、先染反物、後染反物
27	有限会社 織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー・腹巻、手袋・靴下））
28	株式会社 丸万中尾	後染反物（変一越（江戸小紋、友禅、色無地）、紋意匠（江戸小紋、色無地、友禅）、帯地（後染）
29	株式会社 むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社 高島屋	後染反物（振袖、七五三着物、色無地）、長襦袢
31	株式会社 さが美	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
32	有限会社 まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社 小いけ	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
35	株式会社 伊と幸	後染反物（色無地）、白生地（色無地）、裏絹（胴裏）、帯地（後染）
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）帯地（後染）
37	株式会社 和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社 榎屋高尾	帯地（袋帯）
39	株式会社 つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社 越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）

表示者登録番号	企 業 名	主な絹製品名
41	株式会社 小倉商店	白生地（結城紬）、先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）
42	染織家 柳 崇	先染反物、帯地
43	染織家 児玉京子	先染反物
44	草木染工房山村	先染反物、帯地、ストール
45	手織り よおん	先染反物、帯地
46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯地
47	株式会社 龍工房	和装小物（組紐）
48	からん工房	先染反物（紋紬、紆）、帯地
49	たわた工房	先染反物、帯地
50	山音 株式会社	後染反物（色無地（変三越、駒紬））
51	やまと 株式会社	後染反物
52	株式会社 御園織物	先染反物、帯地
53	桜井 株式会社	帯地（先染）
54	有栖川織物 有限会社	帯地（先染）
55	太田和 株式会社	先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）
56	株式会社 岩田	帯地（先染）
57	有限会社 神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物 株式会社	帯地（先染）
59	株式会社 やまと	帯地（先染）、帯地（特例）
60	田中種 株式会社	後染反物（小紋（紋意匠））、帯地（九寸名古屋帯）
61	株式会社 京扇	後染反物（色無地）、胴裏絹（パールトーン加工）
62	株式会社 なごみや	後染反物（色無地、黒紋付）
63	丸池藤井 株式会社	後染反物（色無地）、八掛
64	久保商事 株式会社	和装小物（帯揚、半衿）
65	加賀グンゼ 株式会社	裏絹（胴裏）
66	千切屋 株式会社	後染反物（訪問着、付下）、帯地
67	荒川 株式会社	和装小物（帯メ、帯揚）
68	第一衣料 株式会社	後染反物（色無地）
69	株式会社 紅輪	後染反物（色無地）
70	装いの道 株式会社	裏絹（胴裏（トルマリン加工、灰汁浸け加工、ぐんま 200、ぐんまレピア、新小石丸））、後染反物（本藍染、江戸更紗、京友禅）、白生地、帯地（後染）
71	株式会社 高橋屋	裏絹（胴裏（灰汁浸け加工））
72	おお又 株式会社	裏絹（胴裏（灰汁浸け加工））
73	株式会社 天野屋呉服店	裏絹（胴裏（ぐんま 200（灰汁浸け加工））、白生地
74	株式会社 きもの潮見	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
75	株式会社 とみひろ	裏絹（胴裏（ぐんま 200（酵素精練））
76	株式会社 細安	裏絹（胴裏（ぐんま 200（酵素精練））
77	京和きもの 株式会社	裏絹（胴裏（ぐんま 200（酵素精練））
78	株式会社 まるため	裏絹（胴裏（トルマリン加工、パーリー加工））
79	株式会社 小川屋	裏絹（胴裏（ぐんま 200（トルマリン加工、灰汁浸け加工））
80	株式会社 エムラ	裏絹（胴裏（酵素精練））
81	株式会社 荒井呉服店	裏絹（胴裏（酵素精練））
82	株式会社 牛島屋	裏絹（胴裏（酵素精練））

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
83	株式会社 谷呉服店	裏絹（胴裏（酵素精練））
84	株式会社 登美屋	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
85	株式会社 川平屋	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
86	丸専第一衣料 株式会社（丸専きもの）	裏絹（胴裏（パールトーン加工））
87	株式会社 大丸松坂屋百貨店	裏絹（胴裏、比翼（振袖用））、長襦袢
88	西陣織工業組合	洋装品（マフラー）
89	株式会社 あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井絞 株式会社	後染反物（色無地）
91	株式会社 川まん	白生地
92	有限会社 結城屋	白生地
93	株式会社 ウメショウ	白生地
94	株式会社 大徳	後染反物（色無地）
95	有限会社 カシワギ	寝具寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スカーフ、ストール、ネクタイ、シャツ、スーツ）
96	株式会社 北尾織物匠	帯地（袋帯、名古屋帯）
97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀糸 5% を超えるもの）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野 株式会社	帯締、帯締（金銀糸 5% を超えるもの）
100	京商 株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）
101	株式会社 猪井	後染反物
102	株式会社 たちばな	後染反物
103	株式会社 丸富美	後染反物（色無地）
104	株式会社 絹もの屋まつなが	後染反物（色無地）
105	株式会社 山正山崎	後染反物（色無地）
106	有限会社 こくぶん呉服店	後染反物（色無地）
107	株式会社 染織近藤	後染反物（色無地）
108	株式会社 宮川呉服店	後染反物（色無地）
109	株式会社 和らいふ	後染反物（色無地）
110	有限会社 きものいなもと	後染反物（色無地）
111	株式会社 世きね	後染反物
112	株式会社 西陣まいづる	帯地（袋帯（金銀糸 5% を超えるもの））
113	奥順 株式会社	先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）
114	りょうぜん天蚕の会	ショール（天蚕紬糸、天蚕ハイブリット）
115	有限会社 金屋	後染反物（色無地）
116	株式会社 鶴屋百貨店	裏絹（胴裏（酵素精練））
117	黄八丈めゆ工房	先染反物（黄八丈）
118	京屋呉服店	後染反物（色無地）
119	合資会社 車屋呉服店	後染反物（色無地、小紋）
120	宮崎 株式会社	結城紬
121	有限会社 内海呉服店きもの千歳屋	白生地
122	長島繊維 株式会社	後染反物（色無地、帯）
123	株式会社 しょう美	後染反物（色無地）
124	合資会社 治田呉服店	後染反物（色無地）
125	株式会社 丸十	後染反物（小紋）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
126	株式会社 竹田嘉兵衛商店	裏絹（胴裏（酵素精練））
127	有限会社 樋口屋京染店	白生地（紋意匠）
128	大門屋	白生地（牛首紬）、帯地（後染（牛首紬））
129	株式会社 加藤萬	和装小物（帯揚、半衿）
130	株式会社 しゃらく	後染反物（小紋）
131	合資会社 山中商店	後染反物（小紋）
132	きもの処 あだち	後染反物（小紋）
133	西川産業 株式会社	寝装寝具（掛布団）
134	繭工房 華美	寝衣（長肌着、短肌着）
135	株式会社 青山みとも	裏絹（胴裏（酵素精練））
136	株式会社 和想	後染反物（小紋）
137	株式会社 高島屋呉服店	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	和装小物（褌）、洋装品（ネクタイ）
139	株式会社 丸年呉服店	後染反物（小紋）
140	株式会社 染織館	後染反物（小紋）
141	株式会社 京ろまん	後染反物（小紋）
142	五嶋 株式会社	和装小物（帯締）
143	株式会社 わふくや	長襦袢地
144	株式会社 布屋呉服店	裏絹（胴裏（トルマリン加工））、後染反物（小紋）
145	有限会社 明石屋	後染反物（色無地）、帯地（後染）
146	宮井 株式会社	和装小物（風呂敷）
147	株式会社 ナカノ	後染反物（小紋）
148	株式会社 芦田呉服店	後染反物（色無地、小紋）
149	株式会社 甲斐絹座	服飾品（スカーフ、ネクタイ）
150	有限会社さいとう呉服店	後染反物（色無地、付下）
151	株式会社西松屋	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
152	株式会社西尾呉服店	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
153	勝山織物 株式会社	帯地（金銀糸 5% を超えるもの）
154	有限会社 石川	後染反物（型友禅、羽二重色無地）、先染反物
155	東朋 株式会社	服飾品（ストール）

蚕糸関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館 “紫” (ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 (財) 日本きもの文化協会	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区御池通室町東入る竜池町 448-2 伊と幸ビル	075-254-5884
グンゼ博物館	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民俗館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上峰屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344-1235	027-340-6060
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

蚕糸関係団体ホームページ一覧

平成 22 年 4 月 22 日現在

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シヤパ[®]シルクセンター)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafts.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室

<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>

(国) 東京農工大学農学部生物生産学科

<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>

(国) 東京農工大学工学部生命工学科

<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>

(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程

<http://www.bio.kit.ac.jp/>

(国) 京都工芸繊維大学

<http://www.kit.ac.jp/>

(国) 信州大学繊維学部

<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>

(国) 名古屋大学農学部

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>

(国) 北海道大学応用分子生物学講座

http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html

(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室

<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>

(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻

http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html

(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース

<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>

(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科

<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>

(独) 農業生物資源研究所

<http://www.nias.affrc.go.jp>

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所

http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html

(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所

http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545

群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241

京都府織物・機械金属振興センター

<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>

京都市産業技術研究所繊維技術センター

<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	42
(2) 養蚕業の概要	43
(3) 養蚕農家数の推移	44
(4) 収繭量の推移	45
(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）	46
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移（2008～2010年）	47
(7) 平成22年度蚕期別、都府県別繭生産数量	48
(8) 平成22年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	49
(9) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	50
(10) 生糸の織度別生産数量の推移	51
(11) 国産生糸価格実態	54
(12) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	55
(13) 品目別絹二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	56
(14) 製糸工場の原料繭需給	57
(15) 製糸工場の操業状況	58
(16) 生糸在庫数量の内訳	59
(17) 蚕糸関係品目別輸入数量	60
(18) 生糸の原産国別輸入数量	61
(19) 絹糸の原産国別輸入数量	62
(20) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	63
(21) 絹織物生産数量	64
(22) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	65
(23) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	66

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	67
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	68
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数	69
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	70
(5) 中国のシルク類（生糸・絹糸・絹織物）の輸出状況	71
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率	72
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率	73
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	74
(9) 中国省別従業員年平均賃金（2009年）	75
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	76
(11) ブラジルの繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況	77

-資料・国内-

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収穫量 Cocoon Production	1戸当 収穫量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
1992 4年	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
1993 5年	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
1994 6年	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
1995 7年	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
1996 8年	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
1997 9年	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 10年	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 11年	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 12年	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 13年	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 14年	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 15年	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 16年	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 17年	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 18年	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 19年	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 20年	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 21年	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 22年	753	265	352	0.9	7	49	34.9	11,659
前年対比 (%) 2010/09	82.3	81.0	98.6	75.0	100.0	81.7	103.9	101.6

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査である。
・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(社)日本絹人織機物工業会調査である。
平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のもの
である。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before
2008)
・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation
(Sericultural Industry, after 2009)
・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(Silk-Reeling, after 2009)
・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all
reeling mills)

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項 目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
年 次 Year	Farmhouse- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(4) 収繭量の推移

Cocoon Production

年 次 Year	項 目 Item	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量（年間） Cocoon production per farm harvested area of mulberry
		年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	
		Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993		11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002		880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003		775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004		675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005		626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006		505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007		433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008		382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)		88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)		100.0	38.5	25.1	36.4					

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項 目 Item 県 別 Each Prefecture	年 計 Annual total			春 繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養 蚕 農家数	桑使用 面 積	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩 手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮 城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山 形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福 島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨 城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃 木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群 馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼 玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千 葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12		2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山 梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長 野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐 阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳 島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛 媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊 本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移 (2008～2010年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

Year Item	2008年		2009年		2010年	
	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号	4,023	28.2	4,803	34.9	3,420	26.3
錦 秋 × 鐘 和	2,700	19.0	2,400	17.5	2,400	18.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号	2,410	16.9	1,565	11.4	2,072	15.9
ぐ ん ま 200	1,832	12.9	1,622	11.8	1,627	12.5
春 嶺 × 鐘 月	900	6.3	900	6.5	1,001	7.7
かいりょう × あ け ぼ の	355	2.5	442	3.2	487	3.7
新 小 石 丸	313	2.2	317	2.3	355	2.7
芙 蓉 × つ く ば ね	300	2.1	300	2.2	300	2.3
上 州 絹 星	191	1.3	204	1.5	51	0.4
世 紀 二 一	176	1.2	218	1.6	191	1.5
緑 繭 1 号	157	1.1	129	0.9	56	0.4
ブ ラ チ ナ ボ 一 イ	147	1.0	71	0.5	73	0.6
朝 日 × 東 海	100	0.7	100	0.7		
朝 日 × つ く ば ね	100	0.7	100	0.7	100	0.8
ぐ ん ま 黄 金	92	0.6	117	0.9	152	1.2
改 良 小 石 丸	79	0.6	87	0.6	87	0.7
白 繭 細 1 号	71	0.5	60	0.4	115	0.9
小 石 丸	55	0.4	39	0.3	27	0.2
蚕 技 研 10 号	45	0.3				
蚕 技 研 11 号	39	0.3	54	0.4	26	0.2
蚕 技 研 11 号	28	0.2	61	0.4	53	0.4
分離白1号 × 支 106 号	18	0.1	9	0.1	8	0.1
白 繭 細 2 号	16	0.1	20	0.1		
新 青 白 号	15	0.1	9	0.1	14	0.1
極 細 1 号	13	0.1	21	0.2	30	0.2
玉 小 石 山	12	0.1	33	0.2	16	0.1
鷹 山	9	0.1	29	0.2	25	0.2
支 21 号 × 四 川 3 眠	9	0.1	6	0.0	4	0.0
又 昔 × 中 515 号	8	0.1	6	0.0	5	0.0
青 熟 × 支 21 号	6	0.0	6	0.0	6	0.0
諸 桂 × 紹 興 白	6	0.0	4	0.0	4	0.0
黄 白	5	0.0	5	0.0	5	0.0
天 竜 青 白 × 支 108 号	4	0.0				
青 熟 × 中 515 号	3	0.0	2	0.0	3	0.0
鬼 縮 × 中 515 号	3	0.0	4	0.0	1	0.0
青 白 × 中 515 号	3	0.0				
山 東 三 眠 × 中 515 号	2	0.0				
松 岡 姫					200	1.5
い ろ ど					39	0.3
鐘 光 × 黄 玉					35	0.3
太 平 × 長 安					7	0.1
支 108 号 × 青 熟			2	0.0	5	0.0
合 計 Total	14,245	100.0	13,745	100.0	13,000	100.0

資 料 : (財) 大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 平成22年度蚕期別、都府県別繭生産量

Cocoon production by prefectures in 2010.

(全農集計に(財)大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター集計分を加えた数値)

(単位: kg、%)

平成23年1月14日現在

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
青森県	192.1	0.0	0.0%	153.1	137.4	89.7%	151.1	144.7	95.8%	496.3	282.1	56.8%
岩手県	2,526.0	2,017.6	79.9%	3,305.0	2,783.7	84.2%	3,694.6	3,049.7	82.5%	9,525.6	7,851.0	82.4%
宮城県	3,299.9	2,755.5	83.5%	2,692.3	2,335.9	86.8%	3,757.0	3,046.5	81.1%	9,749.2	8,137.9	83.5%
秋田県	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
山形県	2,296.3	1,649.3	71.8%	1,128.3	761.7	67.5%	1,807.6	1,254.4	69.4%	5,232.2	3,665.4	70.1%
福島県	15,188.1	12,488.4	82.2%	14,670.8	11,946.4	81.4%	17,676.8	16,645.2	94.2%	47,535.7	41,080.0	86.4%
茨城県	4,814.0	3,672.0	76.3%	3,541.5	2,653.6	74.9%	4,242.9	3,181.4	75.0%	12,598.4	9,507.0	75.5%
栃木県	12,984.9	12,003.5	92.4%	6,901.5	4,465.3	64.7%	15,963.0	14,350.8	89.9%	35,849.4	30,819.6	86.0%
群馬県	55,127.7	49,138.1	89.1%	34,626.8	23,357.1	67.5%	49,254.0	38,871.7	78.9%	139,008.5	111,366.9	80.1%
埼玉県	9,778.9	9,018.9	92.2%	7,000.2	4,968.6	71.0%	8,475.9	6,903.5	81.4%	25,255.0	20,891.0	82.7%
千葉県	1,347.4	1,263.6	93.8%	976.8	671.7	68.8%	1,390.9	1,310.9	94.2%	3,715.1	3,246.2	87.4%
東京都	539.8	543.1	100.6%	0.0	0.0	—	440.0	342.3	77.8%	979.8	885.4	90.4%
神奈川県	863.9	884.8	102.4%	593.0	584.8	98.6%	735.4	637.9	86.7%	2,192.3	2,107.5	96.1%
山梨県	4,522.1	3,851.7	85.2%	1,824.1	1,170.0	64.1%	2,807.9	2,508.8	89.3%	9,154.1	7,530.5	82.3%
長野県	2,531.4	3,016.2	119.2%	3,116.3	2,212.9	71.0%	2,932.4	2,533.0	86.4%	8,580.1	7,762.1	90.5%
新潟県	0.0	0.0	—	102.3	46.6	—	44.7	51.9	116.1%	147.0	98.5	67.0%
岐阜県	1,978.6	1,351.3	68.3%	391.2	232.8	59.5%	1,170.6	687.4	58.7%	3,540.4	2,271.5	64.2%
静岡県	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
愛知県	113.7	120.9	106.3%	0.0	0.0	—	34.9	0.0	—	148.6	120.9	81.4%
兵庫県	92.0	83.5	90.8%	83.6	80.0	95.7%	83.0	66.0	79.5%	258.6	229.5	88.7%
京都府	121.0	102.4	84.6%	74.1	97.5	131.6%	64.6	40.6	62.8%	259.7	240.5	92.6%
徳島県	1,674.6	0.0	0.0%	919.6	0.0	0.0%	1,148.6	0.0	0.0%	3,742.8	0.0	0.0%
愛媛県	2,340.2	2,172.3	92.8%	2,741.0	1,183.1	43.2%	1,937.2	1,671.9	86.3%	7,018.4	5,027.3	71.6%
高知県	344.5	280.4	81.4%	0.0	0.0	—	144.4	128.1	88.7%	488.9	408.5	83.6%
熊本県	817.3	543.4	66.5%	128.3	0.0	0.0%	237.5	271.6	114.4%	1,183.1	815.0	68.9%
宮崎県	165.6	136.6	—	0.0	0.0	—	131.8	62.7	—	297.4	199.3	67.0%
全国計	123,660.0	107,093.5	86.6%	84,969.8	59,689.1	70.2%	118,326.8	97,761.0	82.6%	326,956.6	264,543.6	80.9%

資料: 全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査

Source: National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The dainippon Silk Foundation

(8) 平成22年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures in 2010.

平成22年12月現在、全農調査（単位：戸、％）

都府県名	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
青森県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	21	15	71.4	23	23	100.0	28	23	82.1	33	27	81.8
秋田県	0	0	－	0	0	－	0	0	－	0	0	－
宮城県	30	21	70.0	23	17	73.9	33	21	63.6	37	28	75.7
山形県	11	10	90.9	10	9	90.0	11	9	81.8	12	11	91.7
福島県	83	71	85.5	72	65	90.3	82	76	92.7	95	83	87.4
茨城県	33	18	54.5	28	20	71.4	24	20	83.3	33	37	112.1
栃木県	43	37	86.0	32	25	78.1	40	38	95.0	47	40	85.1
群馬県	336	288	85.7	290	216	74.5	330	278	84.2	373	310	83.1
埼玉県	72	63	87.5	57	48	84.2	68	59	86.8	79	68	86.1
千葉県	12	10	83.3	9	7	77.8	9	8	88.9	12	11	91.7
東京都	6	6	100.0	0	0	－	7	5	71.4	7	7	100.0
神奈川県	9	9	100.0	10	10	100.0	10	10	100.0	12	12	100.0
新潟県	15	0	－	2	1	50.0	3	1	33.3	15	1	6.7
山梨県	31	24	77.4	14	7	50.0	22	21	95.5	31	27	87.1
長野県	32	28	87.5	26	19	73.1	27	25	92.6	39	31	79.5
岐阜県	25	18	72.0	9	8	88.9	18	17	94.4	27	21	77.8
静岡県	1	0	0.0	1	0	－	1	0	－	1	0	－
愛知県	2	1	50.0	1	0	－	0	0	－	3	1	33.3
兵庫県	1	1	100.0	1	1	100.0	0	1	－	1	1	100.0
島根県	1	0	－	0	0	－	1	0	－	1	0	0.0
徳島県	16	0	－	12	0	0.0	13	0	－	16	0	－
愛媛県	17	17	100.0	19	15	78.9	17	19	111.8	22	19	86.4
高知県	4	4	100.0	0	0	－	3	3	100.0	5	5	100.0
熊本県	10	8	80.0	4	2	50.0	6	4	66.7	10	8	80.0
宮崎県	2	4	200.0	3	0	－	1	2	200.0	3	4	133.3
全国計	814	654	80.3	647	494	76.4	755	641	84.9	915	753	82.3

資料：全国農業協同組合連合会調査

Source: National Federation of Agricultural Co-operative Associations

(9) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年 月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,152	12,085	—	13,766	4,055	16,647	388	8,996	6,269
2010	882	12,209	—	13,817	3,329	16,306	324	9,029	6,299
生糸年度 Silk Year									
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009	1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2010 - 5	77	1,532	—	1,177	3,661	1,192	20	821	511
6	77	919	—	1,115	3,542	1,325	19	745	528
7	76	645	—	1,042	3,221	1,573	54	783	551
8	61	985	—	1,063	3,204	1,303	19	873	482
9	60	1,174	—	1,181	3,257	1,235	32	750	582
10	71	1,070	—	798	3,600	1,254	74	659	555
11	72	1,082	—	1,187	3,567	1,453	36	879	480
12	74	1,223	—	1,535	3,329	1,485	23	836	506
2011 - 1	53	1,448	—	1,521	3,309	1,790	18	976	427
2	69	593	—	823	3,148	982	55	486	559
3	65	1,381	—	1,031	3,563	1,858	15	769	599
4	70	372	—	851	3,154	1,674	15	741	562
5	66	1,280	—	1,501	2,999	1,797	17	910	440
6	63	760	—	890	2,932	1,731	30	762	667
7	57	489	—	680	2,872	1,489	29	770	457
8	53	547	—	590	2,882	1,498	47	706	443
9	61	420	—	932	2,431	1,340	45	610	568

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on data of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = {Stock at end of the previous month + (A) + (B)} - {(C) + (E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年 月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
暦 年 Calendar Year						
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
生糸年度 Silk Year						
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	0	205	358	208	242
2010 - 6	77	—	7	36	—	34
7	76	—	11	32	2	31
8	61	—	12	24	1	24
9	60	—	29	9	7	15
10	71	—	12	27	5	27
11	72	1	6	31	—	34
12	74	0	7	24	8	35
2011 - 1	53	—	27	12	4	10
2	69	—	16	23	5	25
3	65	—	18	15	10	22
4	70	—	13	22	7	28
5	66	—	18	18	6	24
6	63	—	11	29	7	16
7	59	—	13	23	—	23
8	53	1	9	24	6	13
9	61	—	15	23	6	17

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているので、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～).

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(11) 国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／k g
(Unit：Yen/ k g)

Year & Month \ Size	21d	27d	31d	平均 Average
2005	3, 870	3, 173	3, 107	3, 383
2006	4, 617	4, 267	4, 080	4, 321
2007	3, 961	3, 625	3, 573	3, 720
2008	4, 266	3, 754	3, 489	3, 836
2009	4, 171	3, 598	3, 136	3, 635
2010	4, 152	3, 891	3, 564	3, 864
2010 — 4	4, 026	3, 750	3, 100	3, 625
5	4, 144	3, 876	3, 314	3, 778
6	4, 192	3, 867	3, 729	3, 929
7	4, 000	3, 883	3, 600	3, 828
8	4, 256	3, 893	3, 814	3, 988
9	4, 209	3, 965	3, 625	3, 933
10	4, 231	4, 106	3, 833	4, 057
11	4, 338	4, 149	3, 942	4, 143
12	4, 329	4, 336	4, 002	4, 222
2011 — 1	4, 267	4, 267	4, 127	4, 220
2	4, 763	4, 737	5, 400	4, 967
3	4, 800	4, 619	4, 556	4, 658
4	4, 942	4, 593	4, 865	4, 800
5	5, 188	4, 699	4, 853	4, 913
6	5, 200	5, 035	4, 750	4, 995
7	5, 600	5, 109	5, 327	5, 345
8	5, 602	5, 106	5, 586	5, 431
9	5, 778	5, 237	6, 078	5, 698
10	5, 455	5, 282	5, 872	5, 536

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：（社）日本生糸問屋協会

Remarks：Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source：Japan Raw Silk Dealer's Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸B類(21デニール3A)

Standard Raw Silk:21d 3A

上段単位:元/kg、下段:円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
8月中	8月	元	332.18	321.75	336.90	326.78
		円	4,318	4,183	4,380	4,248
	9月	元	323.10	311.55	329.70	318.83
		円	4,200	4,050	4,286	4,145
	10月	元	320.25	312.15	322.20	314.48
		円	4,163	4,058	4,189	4,088
	11月	元	320.55	312.30	322.65	313.58
		円	4,167	4,060	4,194	4,076
	12月	元	320.10	311.40	321.75	312.23
		円	4,161	4,048	4,183	4,059
	1月	元	314.93	306.83	317.25	309.00
		円	4,094	3,989	4,124	4,017
	3月	元	307.50	297.98	313.43	304.88
		円	3,998	3,874	4,075	3,963
	4月	元	298.20	297.90	299.10	299.10
		円	3,877	3,873	3,888	3,888
	5月	元	307.65	301.95	307.88	302.33
		円	3,999	3,925	4,002	3,930
	7月	元	308.48	301.73	308.48	302.40
		円	4,010	3,922	4,010	3,931

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
9月中	9月	元	307.14	298.74	310.62	303.78
		円	3,993	3,884	4,038	3,949
	10月	元	297.18	289.50	299.82	293.76
		円	3,863	3,764	3,898	3,819
	11月	元	294.48	288.72	296.46	291.42
		円	3,828	3,753	3,854	3,788
	12月	元	291.54	285.96	293.94	289.26
		円	3,790	3,717	3,821	3,760
	1月	元	288.66	283.14	291.48	286.50
		円	3,753	3,681	3,789	3,725
	3月	元	287.88	279.36	291.72	284.88
		円	3,742	3,632	3,792	3,703
	4月	元	283.80	277.98	286.50	280.86
		円	3,689	3,614	3,725	3,651
	5月	元	282.96	278.28	284.76	280.20
		円	3,678	3,618	3,702	3,643
	7月	元	282.06	277.68	284.22	279.90
		円	3,667	3,610	3,695	3,639
	9月	元	278.40	277.50	287.40	287.40
		円	3,619	3,608	3,736	3,736

円換算レートは、1元＝13.00円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.00Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸B類(21デニール3A)
Standard Raw Silk:21d 3A

上段単位: 元/kg、下段: 円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
10月中	10月	元	303.30	301.13	309.68	306.60
		円	3,943	3,915	4,026	3,986
	11月	元	298.65	294.75	306.98	300.45
		円	3,882	3,832	3,991	3,906
	12月	元	297.83	293.10	305.93	298.73
		円	3,872	3,810	3,977	3,883
	1月	元	298.05	293.40	305.63	299.03
		円	3,875	3,814	3,973	3,887
	3月	元	296.93	292.43	306.23	298.28
		円	3,860	3,802	3,981	3,878
	4月	元	295.88	291.60	304.95	298.73
		円	3,846	3,791	3,964	3,883
	5月	元	291.38	290.18	297.23	294.45
		円	3,788	3,772	3,864	3,828
	6月	元	300.30	294.60	300.30	294.60
		円	3,904	3,830	3,904	3,830
	7月	元	293.18	291.23	299.70	295.73
		円	3,811	3,786	3,896	3,844
	9月	元	295.43	291.30	303.60	297.00
		円	3,841	3,787	3,947	3,861

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
11月中	11月	元	300.23	298.58	303.60	301.95
		円	3,903	3,881	3,947	3,925
	12月	元	295.73	294.30	299.48	298.13
		円	3,844	3,826	3,893	3,876
	1月	元	295.28	294.08	299.55	297.75
		円	3,839	3,823	3,894	3,871
	3月	元	294.90	292.88	301.35	298.28
		円	3,834	3,807	3,918	3,878
	4月	元	295.05	292.88	299.63	297.38
		円	3,836	3,807	3,895	3,866
	5月	元	292.95	291.83	294.83	293.40
		円	3,808	3,794	3,833	3,814
	6月	元	292.88	291.68	294.83	293.33
		円	3,807	3,792	3,833	3,813
	7月	元	292.95	291.45	294.98	293.48
		円	3,808	3,789	3,835	3,815
	9月	元	290.33	286.50	295.28	291.53
		円	3,774	3,725	3,839	3,790

円換算レートは、1元＝13.00円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.00Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

(12) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					二 次 The Second	輸 出 Export					内 需	在 庫 Ending Stocks ④	
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	計 ③ Total		生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	Domestic Demand ②-③			
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	152	16	0	0	15	1	136	43
対前年比 2010/09 (%)	95	75	100	102	100	100	107	102	80	100	—	—	100	100	78	91

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production, Bureau MAFF.

(13) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2005	2006	2007	2008	2009	2010	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		2.7	3.7	3.9	2.5	1.8	2.8	155.6	2.1
	女子用外衣類 Women's upper garments		59.9	56.6	50.0	40.2	37.1	38.4	103.5	28.9
	うちブラウス Blouse of the inside		3.7	3.5	3.0	3.4	2.8	2.4	85.7	1.8
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.8	5.7	2.2	1.6	1.1	1.0	90.9	0.8
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		16.1	15.1	15.0	16.3	13.5	13.9	103.0	10.5
	ハンカチ Handkerchief		1.9	1.0	0.5	0.5	0.4	0.3	75.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.4	2.7	3.0	2.9	2.5	2.2	88.0	1.7
	ネクタイ類 Ties		25.2	21.4	21.6	20.8	18.2	18.1	99.5	13.6
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		19.9	18.5	21.2	19.8	15.9	17.9	112.6	13.5
	その他の洋装類 Other western clothes		26.7	26.3	25.4	23.7	22.0	21.0	95.5	15.8
洋装類計 Western clothes subtotal			161.6	151.0	143.0	128.3	112.4	115.6	102.8	86.9
和装類計 Japanese clothes subtotal			17.4	18.4	15.5	14.7	15.9	14.5	91.2	10.9
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside			14.1	16.0	12.9	12.1	13.9	12.5	89.9	9.4
その他 Others			2.1	2.5	2.5	2.4	1.9	2.9	152.6	2.2
合 計 Total			181.0	171.9	161.0	145.4	130.2	133.0	102.2	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Japan Raw Silk Dealer's Association)

Note :Total may not added up due to round off.

(14) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

項 目 Item 年 月 Year & Month		総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2005		866	830	589
2006		600	646	541
2007		548	581	505
2008		393	518	379
2009		308	385	313
2010		241	300	263
生糸年度 Silk Year				
2005		839	673	390
2006		562	599	349
2007		502	583	266
2008		406	452	224
2009		324	337	209
2010		260	281	188
Year	Month			
2010	— 3	△ 1	28	257
	4	1	23	235
	5	0	26	209
	6	54	30	233
	7	14	23	224
	8	70	19	275
	9	0	22	253
	10	80	24	309
	11	8	24	293
	12	1	31	263
2011	— 1	27	17	273
	2	5	23	255
	3	0	22	233
	4	1	24	210
	5	0	22	188
	6	46	21	213
	7	36	20	229
	8	34	20	243
	9	13	21	235

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(15) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
2005		10	203	126	62	269	111
2006		9	114	94	82	266	103
2007		8	112	93	83	266	100
2008		7	112	90	80	266	90
2009		7	118	71	60	259	82
2010		7	118	58	49	247	73
2009 —	9	7	118	77	65	22	82
	10	7	118	77	65	24	82
	11	7	118	74	63	21	81
	12	7	118	71	60	21	82
2010 —	1	7	118	79	67	20	81
	2	7	118	77	65	21	80
	3	7	118	80	68	22	80
	4	7	118	79	67	20	90
	5	7	118	75	64	21	91
	6	7	118	74	63	22	84
	7	7	118	75	64	17	84
	8	7	118	76	64	18	79
	9	7	118	72	61	22	79
	10	7	118	76	64	22	79
	11	7	118	73	62	21	79
	12	7	118	58	49	21	73
2011 —	1	7	118	58	49	20	67
	2	7	118	58	49	21	63
	3	7	118	60	51	23	62
	4	7	118	55	47	21	66
	5	7	110	55	50	20	64
	6	7	110	52	47	21	60
	7	7	110	55	50	22	56
	8	7	110	53	48	20	64
	9	7	110	64	58	21	65

資 料：農林水産省生産局調査（～2010. 3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010. 4～）。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010. 3）.
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association（2010. 4～）.

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(16) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	総 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
生糸年度 Silk Year									
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
2010	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
2010 — 2	3,818	3,818	351	10	2,961	496			
3	3,650	3,650	342	0	2,863	445			
4	3,229	3,229	355	0	2,478	396			
5	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
6	3,542	3,542	343	0	2,644	555			
7	3,221	3,221	334	0	2,441	446			
8	3,204	3,204	340	0	2,365	499			
9	3,257	3,257	331	0	2,422	504			
10	3,600	3,600	328	0	2,646	626			
11	3,567	3,567	331	0	2,628	608			
12	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
2011 — 1	3,309	3,309	292	0	2,388	629			
2	3,148	3,148	284	0	2,219	645			
3	3,563	3,563	288	0	2,511	764			
4	3,154	3,154	288	0	2,182	684			
5	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
6	2,932	2,932	213	0	2,110	609			
7	2,872	2,872	229	0	2,095	548			
8	2,882	2,882	243	0	2,168	471			
9	2,431	2,431	281	0	1,729	421			

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3)。

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～)。

(17) 蚕糸関係品目別輸入状況（平成18年～23年9月）
Breakdown of Silk-Related Products Imports (2006～Sep. 2011)

	単位 Unit	平成23年(2011)		平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	22年/21年 2010/09 (%)
		(9月) Sep.	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	420	7, 290	12, 209	12, 085	15, 242	12, 858	21, 148	101. 0
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1, 340	14, 154	16, 306	16, 647	22, 636	19, 439	31, 524	98. 0
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	—	—	82	149	317	333	430	55. 0
繭 Cocoon	kg	0	2, 800	13, 158	9, 800	4, 000	13, 750	18, 565	134. 3
真綿 Floss Silk	kg	—	—	—	—	29, 071	28, 660	34, 176	—
ペニ Peigne	kg	—	—	—	35, 331	2, 770	6, 336	19, 760	—
くず繭 Waste Cocoon	kg	230	6, 925	9, 395	33, 450	23, 770	17, 184	1, 020	28. 1
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	—	202, 220	242, 082	234, 894	—
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	18, 590	63, 011	134, 852	103, 122	193, 125	238, 507	255, 951	130. 8
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	18, 820	69, 936	144, 247	171, 903	450, 956	532, 769	545, 801	83. 9
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	23, 912	286, 938	451, 219	335, 710	526, 662	608, 270	756, 065	134. 4
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	2, 290	79, 802	104, 374	97, 554	143, 585	117, 265	208, 913	107. 0
絹織物 Silk Fabrics	m ²	609, 849	6, 730, 107	9, 029, 003	8, 996, 010	11, 540, 335	11, 355, 333	12, 989, 059	100. 4

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(18) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
年 月 Year & Month	Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦年 Calendar Year						
2008	15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	-	117 (-)	-
2009	12,085 (72)	8,169 (51)	3,855 (21)	11 (-)	50 (-)	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	0	77	-
生糸年度 Silk Year						
2008	12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	-
2009	12,857 (66)	8,787 (38)	3,896 (28)	11	73	-
2010	12,172 (79)	9,062 (65)	3,068 (14)	1	39	-
2010 - 1	1,061	857	205	-	-	-
2	722	490	229	-	3	-
3	1,182 (5)	639	512 (5)	-	31	-
4	612	449	163	-	-	-
5	1,532 (20)	1,082 (10)	450 (10)	-	-	-
6	919 (4)	681	237 (4)	-	1	-
7	645 (5)	396 (5)	246	-	2	-
8	985 (15)	790 (15)	176	-	19	-
9	1,174	892	282	-	-	-
10	1,070 (16)	670 (10)	400 (6)	-	-	-
11	1,082	843	234	1	5	-
12	1,223	651	572	-	-	-
2011 - 1	1,448 (13)	1,168 (10)	274 (3)	-	6	-
2	593	521	72	-	-	-
3	1,381 (15)	1,052 (10)	321 (5)	-	6	-
4	372	316	56	-	-	-
5	1,280 (11)	1,082 (11)	198	-	-	-
6	760 (7)	416	344 (7)	-	-	-
7	489	389	100	-	-	-
8	547	292	254	-	-	-
9	420	420	0	-	-	-

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.
2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(19) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 年月 Country Year & Month	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2008	22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009	16,647	—	9,655	5,096	10	—	1,742	144
2010	16,306	—	9,675	4,694	16	—	1,716	205
生糸年度 Silk Year								
2008	18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2009	17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2009 — 6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—
8	1,646	—	842	664	—	—	140	—
9	1,525	—	911	447	4	—	106	58
10	1,664	—	808	563	0	—	293	—
11	1,525	—	800	604	—	—	120	0
12	1,423	—	1,021	170	—	—	202	30
2010 — 1	1,683	—	1,086	478	—	—	118	1
2	1,435	—	713	491	2	—	230	—
3	1,051	—	506	343	1	—	132	68
4	1,318	—	747	363	—	—	178	29
5	1,192	—	692	342	—	—	157	—
6	1,325	—	889	296	—	—	135	4
7	1,573	—	1,026	352	—	—	144	50
8	1,303	—	784	382	—	—	137	0
9	1,235	—	811	302	—	—	121	1
10	1,254	—	754	366	2	—	132	—
11	1,453	—	790	526	—	—	81	56
12	1,485	—	877	465	1	—	141	1
2011 — 1	1,790	—	1,108	543	—	—	139	—
2	982	—	559	312	—	—	110	—
3	1,858	—	1,244	467	2	—	134	10
4	1,674	—	1,124	448	2	—	99	1
5	1,797	—	1,151	468	1	—	109	68
6	1,731	—	906	628	—	—	197	—
7	1,489	—	910	432	0	—	155	—
8	1,498	—	730	432	10	—	225	—
9	1,340	—	745	543	1	—	51	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(20) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入量と単価
Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵, K g/円

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
年 月 Year & Month										
暦 年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,513	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,169	2,740	3,855	3,059	9,655	2,840	1,742	3,611	5,096	3,034
2010	8,411	3,667	3,705	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,694	3,411
2010 - 7	396	3,572	246	3,811	1,026	3,729	144	4,221	352	3,468
8	790	3,599	176	3,632	784	3,747	137	4,048	382	3,376
9	892	3,696	282	3,866	811	3,760	121	4,405	302	3,517
10	670	3,834	400	3,620	754	3,928	132	4,317	366	3,507
11	843	3,983	234	3,650	790	3,984	81	4,161	526	3,478
12	651	4,225	572	3,906	877	4,277	141	4,503	465	3,918
2011 - 1	1,168	4,370	274	4,055	1,108	4,372	139	4,519	543	3,901
2	521	4,626	72	4,293	559	4,578	110	4,465	312	3,890
3	1,052	4,729	321	4,196	1,244	4,723	134	4,882	467	4,031
4	316	4,661	56	4,604	1,124	4,846	99	4,972	448	4,260
5	1,082	4,767	198	4,505	1,151	4,946	109	5,022	468	4,040
4	316	4,661	56	4,604	1,124	4,846	99	4,972	448	4,260
5	1,082	4,767	198	4,505	1,151	4,946	109	5,022	468	4,040
6	416	4,792	344	4,510	906	4,967	197	5,412	628	4,579
7	389	4,893	100	5,918	910	4,990	155	5,741	432	4,726
8	292	4,570	254	4,960	730	4,922	225	5,591	473	4,710
9	421	4,483	0	-	745	8,665	51	5,991	543	4,792

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source：The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks：A unit price is CIF price.

(21) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000m²)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
暦 年 Calendar Year									
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,248	6,930	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	3,733	1,445	1,205	1,083	6,094	3,966	2,128	1,645
2010	11,659	3,790	1,471	1,224	1,095	6,201	4,034	2,167	1,668
2010 — 8	901	293	114	95	85	479	312	167	129
9	962	313	121	101	90	511	333	178	138
10	995	323	125	104	93	530	344	186	142
11	1,004	326	127	105	94	534	347	187	144
12	966	314	122	101	91	514	334	180	138
2011 — 1	814	311	196	15	99	347	142	205	156
2	873	333	210	16	106	372	152	219	168
3	902	345	217	16	110	384	157	226	173
4	989	378	238	18	121	421	172	248	190
5	840	321	202	15	102	358	146	211	161
6	911	348	220	17	111	388	159	229	175
7	834	318	201	15	102	355	145	209	160
8	779	297	188	14	95	332	135	195	150
9	788	301	190	14	96	336	137	198	151

資 料：(社)日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks：Spun and mixed fabrics included.

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(22) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量		丹 後 Tango		長 浜 Nagahama		西 陣 Nishijin	
	Silk Fabrics Production		(白生地) (White Fabrics)		(白生地) (White Fabrics)		(帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2005	19,816	90.3	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,507	90.6	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	52,402	90.9	867,490	88.7
2009	11,472	81.7	503,365	76.6	73,681	83.3	746,538	86.1
2010	11,659	101.6	515,721	102.5	80,701	109.5	859,244	115.1
2008 — 10	1,123	86.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,127	85.7	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,078	83.2	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 — 1	876	79.5	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	1,033	79.5	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	999	77.9	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	987	82.2	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	935	77.8	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	1,009	79.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	958	80.9	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	853	83.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	963	83.3	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	944	84.1	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	978	86.8	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12	937	86.9	43,241	88.1	6,061	102.9	61,841	111.2
2010 — 1	834	95.2	31,911	114.2	5,989	110.3	64,521	91.9
2	939	90.9	46,194	95.2	6,366	106.2	68,288	85.2
3	965	96.6	43,859	99.8	7,813	117.2	75,704	106.9
4	997	101.0	44,458	101.1	7,506	110.9	86,802	122.7
5	981	104.9	42,508	107.0	6,642	128.7	70,454	140.9
6	1,103	109.3	44,160	96.4	7,316	112.7	72,395	121.7
7	1,014	105.8	44,163	109.5	7,146	110.8	63,858	101.9
8	901	105.6	39,856	105.9	7,022	124.4	60,415	141.3
9	962	99.9	41,925	94.7	6,925	114.0	64,965	121.3
10	995	105.4	46,366	114.9	5,807	96.3	78,060	135.0
11	1,004	102.7	45,283	95.1	6,553	94.7	68,940	104.3
12	966	103.1	45,018	104.1	5,616	92.7	68,067	110.1
2011 — 1	814	97.6	32,734	102.6	5,452	91.0	61,927	96.0
2	873	93.0	42,369	91.7	6,027	94.7	60,552	88.7
3	902	93.5	41,784	95.3	6,898	88.3	56,128	74.1
4	989	99.2	44,774	100.7	6,507	86.7	59,998	69.1
5	840	85.6	39,714	93.4	6,096	91.8	62,562	88.8
6	911	82.6	41,785	94.6	6,072	83.0	60,832	84.0
7	834	82.2	43,509	98.5	5,399	75.6	53,800	84.2
8	779	86.5	34,386	86.3	6,064	86.4	49,057	81.2
9	788	81.9	34,639	82.6	5,394	75.0	61,501	94.7

資 料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸関係協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

(23) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2010	290,244	0.3	11,499	▲ 2.9	245	▲ 6.0	4,459	▲ 2.3	2,353	▲ 3.8	1,069	▲ 1.0
2009 - 3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3
10	287,789	1.6	12,287	▲ 2.3	75	▲ 80.8	4,685	0.1	2,705	1.0	1,220	9.3
11	284,740	2.2	13,698	▲ 4.3	236	50.0	5,558	▲ 7.8	2,512	▲ 4.3	1,392	▲ 6.0
12	337,887	2.1	14,546	8.7	344	▲ 0.3	5,750	9.2	2,678	11.0	1,656	7.7
2010 - 1	291,918	1.7	12,997	▲ 3.7	102	▲ 69.3	5,969	▲ 3.4	2,383	▲ 6.2	1,045	2.4
2	261,918	▲ 0.5	9,325	6.1	440	167.8	4,012	4.9	1,678	0.1	717	3.4
3	319,991	4.4	13,147	▲ 1.1	235	▲ 55.3	6,289	1.3	2,116	4.9	860	3.2
4	299,996	▲ 0.7	10,703	▲ 13.1	116	▲ 67.9	4,110	▲ 8.2	2,123	▲ 12.3	817	▲ 14.7
5	280,714	▲ 0.7	12,049	▲ 2.7	124	▲ 31.6	4,097	▲ 5.7	2,834	4.1	1,079	4.0
6	276,494	0.5	11,514	▲ 0.9	77	▲ 34.5	3,902	1.2	2,746	▲ 4.8	1,112	▲ 0.9
7	285,274	1.1	12,273	4.4	755	261.6	3,878	1.2	3,022	0.3	1,266	▲ 0.8
8	293,361	1.7	8,718	▲ 1.0	174	▲ 52.6	2,946	5.0	2,094	▲ 3.3	960	7.5
9	275,367	0.0	9,165	▲ 4.1	395	84.4	3,074	▲ 5.9	1,915	▲ 9.4	916	0.4
10	287,433	▲ 0.4	12,763	5.1	238	215.7	5,000	7.5	2,642	▲ 0.9	1,305	9.3
11	284,212	▲ 0.4	12,530	▲ 7.8	221	▲ 6.7	5,025	▲ 9.6	2,385	▲ 3.4	1,310	▲ 5.1
12	327,006	▲ 3.3	12,802	▲ 11.3	69	▲ 79.9	5,205	▲ 9.5	2,280	▲ 13.2	1,435	▲ 12.8
2011 - 1	289,191	▲ 1.0	12,521	▲ 3.7	120	17.2	5,405	▲ 8.1	2,749	6.1	1,135	9.3
2	260,793	▲ 0.2	8,720	▲ 6.7	282	▲ 36.0	3,802	▲ 5.0	1,445	▲ 12.3	735	2.5
3	291,900	▲ 8.9	11,013	▲ 16.0	451	92.1	5,014	▲ 19.8	1,772	▲ 15.4	773	▲ 10.2
4	292,559	▲ 3.0	11,212	5.0	92	▲ 20.2	4,183	2.3	2,398	14.0	900	10.0
5	276,159	▲ 1.2	11,906	▲ 0.7	49	▲ 60.7	4,099	0.4	2,789	▲ 1.1	1,158	7.6
6	265,807	▲ 3.5	11,384	▲ 0.6	113	44.8	3,620	▲ 7.0	2,907	5.5	1,234	11.8
7	280,046	▲ 2.1	12,078	▲ 1.9	281	▲ 63.3	4,068	4.0	3,103	1.9	1,329	6.1
8	282,008	▲ 4.1	8,921	1.8	456	159.0	2,693	▲ 9.6	2,059	▲ 2.8	943	▲ 0.5
9	270,010	▲ 1.9	8,709	▲ 5.0	221	▲ 44.4	2,966	▲ 3.7	1,895	▲ 1.6	863	▲ 5.1

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2004年	2005年	2006年
		トン	トン	トン
日本	Japan	683	626	505
中国	China	547,091	621,461	739,715
インド	India	120,000	126,000	135,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,005	7,146	8,051
タイ	Thailand	10,650	10,650	10,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	2,543	2,104
トルコ	Turkey	169	170	350
ブルガリア	Bulgaria	20	42	65
ギリシャ	Greece	70	70	100
フィリピン	Philippines	22	14.4	16
シリア	Syria	11.5	5.5	3
主要国の計	Total	730,922	809,728	937,009

区 分		2007年	2008年	2009年
		トン	トン	トン
日本	Japan	433	382	327
中国	China	779,261	683,387	575,299
インド	India	150,000	133,316	131,661
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,617	6,266	4,835
タイ	Thailand	1,785	7,700	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	25,760	25,896
イラン	Iran	1,665	1,185	1,185
トルコ	Turkey	130	126	140
ブルガリア	Bulgaria	55	48	51
ギリシャ	Greece	104	0	100
フィリピン	Philippines	9	6	4
シリア	Syria	2.5	3	4
主要国の計	Total	983,062	879,179	765,157

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナムは、2004年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2004年		2005年		2006年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	263	4,400	151	2,500	119	2,000
中国	China	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000
インド	India	14,620	243,700	15,445	257,400	16,525	275,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,512	25,200	1,285	21,400	1,387	23,100
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,420	23,700	1,080	18,000
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	395	6,600	324	5,400
トルコ	Turkey	28	500	30	500	25	400
ブルガリア	Bulgaria	3	100	6	100	5	100
ギリシャ	Greece	4.5	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	1.1	0	1.6	0
シリア	Syria	1.5	0	0.7	0	0.5	0
主要国の計	Total	101,936	1,699,100	109,849	1,830,800	115,926	1,932,300

区 分		2007年		2008年		2009年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	105	1,800	95	1,600	69	1,200
中国	China	108,420	1,807,000	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900
インド	India	18,320	305,300	18,370	306,200	19,600	326,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,220	20,300	1,177	19,600	811	13,500
タイ	Thailand	760	12,700	1,100	18,300	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,417	23,600	2,447	40,800
イラン	Iran	253	4,200	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	20	300	15	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	7.5	100	6.3	100
ギリシャ	Greece	0	0	0	0	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0	0	0.4	0	0.6	0
主要国の計	Total	132,457	2,207,500	123,233	2,053,900	118,509	1,975,200

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナムは、2004年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2007	2008	対前年比 2008/07	2007	2008	対前年比 2008/07
山 西	Shanxi	5,800	6,033	104	130	64	49
河 北	Hebei	1,020	1,000	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	104,119	95,476	92	22,000	20,450	93
浙 江	Zhejiang	83,900	64,319	77	18,500	17,950	97
安 徽	Anhui	38,100	33,400	88	5,200	5,500	106
江 西	Jiangxi	12,400	10,015	81	2,500	2,570	103
山 東	Shandong	40,500	34,530	85	7,200	5,530	77
河 南	Henan	13,700	11,641	85	3,300	2,800	85
湖 北	Hubei	15,800	21,200	134	470	332	71
湖 南	Hunan	4,200	4,300	102	60	58	97
広 東	Guangdong	81,127	70,693	87	1,400	1,513	108
広 西	Guangxi	205,163	170,900	83	11,000	14,069	128
重 慶	Chongqing	24,800	22,110	89	7,800	5,497	70
四 川	Sichuan	83,700	68,576	82	24,700	16,400	66
貴 州	Guizhou	2,532	3,626	143	-	23	-
雲 南	Yunnan	36,600	40,348	110	1,640	2,871	175
陝 西	Shaanxi	24,600	23,800	97	2,300	2,868	125
甘 肅	Gansu	500	420	84	-	-	-
寧 夏	Ningxia	500	520	104	50	30	60
新 疆	Xinjiang	200	480	240	-	30	-
内 蒙 古	Inner Mongolia	-	-	-	60	65	108.33
合 計	Total	779,261	683,387	88	108,310	98,620	91

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China (1997年～2008年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	前年比 08/07(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	100.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai								0.0	0.0				
江 蘇	Jiangsu	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	91.3
浙 江	Zhejiang	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	76.2
安 徽	Anhui	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	86.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	83.3
山 東	Shandong	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	87.5
河 南	Henan	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	85.7
湖 北	Hubei	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	131.3
湖 南	Hunan	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	87.7
広 西	Guangxi	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	83.4
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing		2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	88.0
四 川	Sichuan	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	82.1
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	108.1
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	96.0
甘 肅	Gansu								0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia								0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
合 計	Total	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	87.7

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5) 中国のシルク類（生糸・絹糸・絹織物）の輸出状況

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2010年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	5,316,040	80.92	210.292	124.18
2 ベトナム	Vietnam	687,800	183.10	27.625	256.92
3 韓国	South Korea	524,545	97.95	21.201	138.58
4 ルーマニア	Romania	508,559	198.80	20.229	281.97
5 日本	Japan	483,704	107.01	20.302	155.15
6 イタリア	Italy	347,761	135.80	14.853	195.92
7 バングラデシュ	Bangladesh	166,676	109.79	6.230	164.02
8 パキスタン	Pakistan	85,423	48.10	3.128	68.19
9 ミャンマー	Myanmar	78,785	119.99	3.028	189.93
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	66,758	229.30	2.502	279.12
11 その他	Others	242,599	59.43	9.458	100.53
合計	Total	8,508,650	92.21	338.848	139.15

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2011年1月～10月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	3,506,987	82.55	182.199	114.20
2 ルーマニア	Romania	561,715	147.55	29.667	205.00
3 ベトナム	Vietnam	463,176	91.22	23.477	123.39
4 韓国	South Korea	393,013	94.14	21.085	130.79
5 日本	Japan	338,781	88.75	19.198	126.33
6 イタリア	Italy	258,905	108.02	14.466	151.64
7 バングラデシュ	Bangladesh	71,836	46.29	3.647	64.06
8 ミャンマー	Myanmar	67,124	96.34	3.513	137.91
9 ブラジル	Brazil	43,631	0.00	2.319	0.00
10 パキスタン	Pakistan	33,816	42.26	1.675	58.12
11 その他	Others	187,321	74.06	10.057	108.33
合計	Total	5,926,305	88.01	311.303	122.42

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	1,697,386	68.52	68.000	106.57
2 日本	Japan	632,473	106.00	26.847	146.56
3 イタリア	Italy	534,502	129.60	22.832	182.77
4 パキスタン	Pakistan	476,671	102.63	19.600	148.45
5 ドイツ	Germany	202,213	68.30	7.535	80.81
6 韓国	South Korea	189,531	93.82	7.847	132.48
7 タイ	Thailand	150,802	171.12	6.384	241.18
8 シリア	Syria	87,563	516.50	0.376	564.61
9 インドネシア	Indonesia	86,871	110.16	3.364	160.01
10 ベトナム	Vietnam	55,208	97.92	2.225	157.13
11 その他	Others	258,693	108.99	10.760	155.24
合計	Total	4,371,913	88.74	175.770	129.03

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	752,495	54.28	39.490	74.59
2 日本	Japan	558,259	108.61	32.307	153.10
3 イタリア	Italy	462,224	119.59	26.747	174.06
4 パキスタン	Pakistan	204,847	49.95	11.045	67.61
5 ドイツ	Germany	166,113	97.07	8.343	133.81
6 韓国	South Korea	149,108	93.04	8.089	126.95
7 タイ	Thailand	126,263	100.18	7.373	142.77
8 インドネシア	Indonesia	75,105	108.16	3.991	156.40
9 マレーシア	Malaysia	31,400	339.68	1.603	410.11
10 ベトナム	Vietnam	31,191	91.00	1.610	126.58
11 その他	Others	119,171	42.75	6.316	80.87
合計	Total	2,676,176	75.47	146.914	108.39

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	56,715,405	86.28	194.688	121.16
2 パキスタン	Pakistan	52,802,642	116.96	133.167	149.68
3 イタリア	Italy	49,555,469	136.42	173.431	164.48
4 香港	Hong Kong	17,082,170	99.57	90.484	120.59
5 韓国	South Korea	15,521,720	91.28	70.217	110.96
6 日本	Japan	11,648,919	102.17	39.907	133.54
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	8,469,624	92.62	31.330	109.83
8 マレーシア	Malaysia	7,832,855	85.90	38.012	125.04
9 シンガポール	Singapore	7,482,141	72.13	30.155	82.34
10 アメリカ	United States	6,024,523	110.33	35.272	117.48
11 その他	Others	40,723,405	115.50	155.883	133.41
合計	Total	273,858,873	104.48	992.546	129.62

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 パキスタン	Pakistan	34,109,698	93.02	112.577	125.74
2 イタリア	Italy	29,391,226	73.52	163.026	121.13
3 インド	India	25,542,375	54.22	114.872	73.52
4 韓国	South Korea	11,765,035	91.22	70.608	125.00
5 香港	Hong Kong	11,379,544	86.02	77.787	115.16
6 日本	Japan	8,983,581	94.76	39.292	126.26
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	6,315,781	89.10	30.952	122.87
8 マレーシア	Malaysia	5,336,884	81.21	32.511	106.08
9 米国	United States	5,224,456	93.46	36.668	130.87
10 チュニジア	Tunisia	4,893,481	95.15	8.824	129.47
11 その他	Others	31,552,560	91.68	168.656	120.37
合計	Total	174,494,621	80.41	855.773	111.67

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額（億元） Wage Bill (100million yuan)				対前年増減率（%） Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,255.8	6,172.6	1,210.6	672.7	21.8	17.4	15.6	42.2
1996年	9,249.4	6,893.3	1,269.4	801.7	12.0	11.7	4.9	19.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	3.8	6.2	1.1	24.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	▲ 0.6	▲ 5.3	▲ 17.8	55.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	6.5	5.1	▲ 5.6	20.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	7.9	6.2	▲ 4.5	20.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	11.4	9.9	▲ 5.5	23.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	11.7	7.3	▲ 3.9	30.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	12.4	8.5	0.4	25.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	14.9	11.4	1.0	25.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	17.1	11.4	3.4	30.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	17.6	13.3	8.5	26.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	21.5	19.9	12.6	24.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	19.7	16.8	8.6	25.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	14.2	12.2	5.8	17.5
2010年	47,269.9	24,886.0	1,433.7	20,949.7	17.3	13.8	12.6	22.1

資料：中国統計年鑑(2011)

Source: China Statistical Yearbook 2011

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年増減率

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金（元） Average Wage (yuan)				対 前 年 増 減 率（％）Indices(preceding year=100)							
					名 目 賃 金Average Wage				実 質 賃 金Average Real Wage			
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	18.9	17.3	21.1	19.9	1.8	0.4	3.7	2.6
1996年	5,980	6,207	4,312	8,521	11.8	11.8	9.6	10.3	2.8	2.7	0.7	1.3
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	7.8	7.6	4.7	6.7	4.5	4.4	1.6	3.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	15.5	13.5	17.7	1.6	16.2	14.2	18.4	2.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	11.7	11.4	8.4	9.8	13.2	12.9	9.8	11.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	12.2	11.8	8.4	10.8	11.3	10.9	7.5	9.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	16.1	17.0	9.8	10.7	15.3	16.2	9.0	9.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	14.2	15.0	11.5	8.4	15.4	16.2	12.6	9.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	12.9	13.0	13.0	10.1	11.9	12.0	12.0	9.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	14.0	14.5	12.7	11.3	10.3	10.9	9.1	7.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	14.3	15.4	14.9	11.2	12.5	13.6	13.1	9.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	14.6	14.4	15.1	14.4	12.9	12.7	13.4	12.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	18.5	20.2	20.0	15.6	13.4	15.0	14.8	10.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	16.9	16.0	17.2	17.6	10.7	9.8	11.0	11.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	11.6	12.7	13.8	9.8	12.6	13.7	14.8	10.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	13.3	12.4	16.5	14.2	9.8	8.9	12.9	10.7

中国統計年鑑2011 Source:China Statiscal Yearbook 2011

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	6,884	7,498	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717
採掘業 Mining	13,627	16,774	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196
製造業 Manufacturing	12,671	14,251	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	18,574	21,543	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309
建築業 Construction	11,328	12,578	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	15,753	18,071	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	30,897	33,449	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	10,894	13,012	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	11,198	12,618	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382
金融業 Financial Intermediation	20,780	24,299	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146
不動産業 Real Estate	17,085	18,467	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	17,020	18,723	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	20,442	23,351	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	11,774	12,884	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	12,665	13,680	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206
教育 Education	14,189	16,085	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	16,185	18,386	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	17,098	20,522	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	15,355	17,372	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242
合 計 Total	13,969	15,920	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539

(出所)中国統計年鑑2011

Source: China Statistical Yearbook 2011

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
製造業 Manufactur	184,236	192,389	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908
合 計 Total	203,109	214,920	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007
年別人民元yuan／円yenレート	14.54	13.50	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00

(9) 中国省別従業員年平均賃金(2010年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region			年平均賃金(単位: 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	65,158	847,054	178.32
天	津	Tianjin	51,489	669,357	140.92
河	北	Hebei	31,451	408,863	86.08
山	西	Shanxi	33,057	429,741	90.47
内	蒙	Inner Mongolia	35,211	457,743	96.37
遼	寧	Liaoning	34,437	447,681	94.25
吉	林	Jilin	29,003	377,039	79.38
黒	龍	Heilongjiang	27,735	360,555	75.91
上	海	Shanghai	66,115	859,495	180.94
江	蘇	Jiangsu	39,772	517,036	108.85
浙	江	Zhejiang	40,640	528,320	111.22
安	徽	Anhui	33,341	433,433	91.25
福	建	Fujian	32,340	420,420	88.51
江	西	Jiangxi	28,363	368,719	77.62
山	東	Shandong	33,321	433,173	91.19
河	南	Henan	29,819	387,647	81.61
湖	北	Hubei	31,811	413,543	87.06
湖	南	Hunan	29,670	385,710	81.20
広	東	Guangdong	40,432	525,616	110.65
広	西	Guangxi	30,673	398,749	83.95
海	南	Hainan	30,775	400,075	84.23
重	慶	Chongqing	34,727	451,451	95.04
四	川	Sichuan	32,567	423,371	89.13
貴	州	Guizhou	30,433	395,629	83.29
雲	南	Yunnan	29,195	379,535	79.90
西	蔵	Tibet	49,898	648,674	136.56
陝	西	Shaanxi	33,384	433,992	91.37
甘	粛	Gansu	29,096	378,248	79.63
青	海	Qinghai	36,121	469,573	98.86
寧	夏	Ningxia	37,166	483,158	101.72
新	疆	Xinjiang	32,003	416,039	87.59
全国平均		Average	36,539	475,007	100.00

(出所) 中国統計年鑑2011 Source: China Statistical Yearbook 2011

(注) 1元=13円 Note: 1yuan=13yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1988/89	11,470
1989/90	15,829
1990/91	17,221
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11 〔見込み〕 〔Estimate〕	3,161 (71%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1988	1,748,996	29,150
1989	1,696,622	28,277
1990	1,693,206	28,220
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	770,000 (95%)	12,833
2011 〔見込み〕 〔Estimate〕	557,000 (72%)	9,283

資料:ブラジル製糸協会

注:()内は対前年比

[]内の見込みは2011年2月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of February 2011.

(11) ブラジルの繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況(総括表)

Production, Import and Export of Raw Silk, Twisted Silk and Silk Fabrics in Brazil (Summary)

年次 Year	生産 Production	年次 Year	輸入 Import	年次 Year	輸出 Export
	生繭Wet Cocoon (ton)		乾繭Dry Cocoon (kg)		乾繭Dry Cocoon (kg)
94/95	16,260	95	82,000	95	101,095
95/96	15,368	96	14,000	96	68,760
96/97	14,811	97	-	97	341,000
97/98	14,594	98	-	98	569,200
98/99	10,305	99	-	99	60,000
99/00	8,473	00	-	00	-
00/01	9,916	01	1,890	01	73,600
01/02	10,238	02	-	02	220,483
02/03	9,966	03	-	03	118,574
03/04	8,005	04	-	04	47,350
04/05	7,146	05	5,000	05	12,326
05/06	8,051	06	-	06	4,030
06/07	8,617	07	-	07	72,000
07/08	6,266	08	-	08	-
08/09	4,835	09	-	09	1,000
09/10	4,439	10*	-	10*	1,000
年次 Year	生糸 Raw Silk (ton)	年次 Year	生糸Raw Silk (kg)	年次 Year	生糸と撚糸 Raw Silk and Twisted Silk (kg)
95	2,468	95	1,700	95	2,321,040
96	2,270	96	6,200	96	2,174,636
97	2,120	97	1,100	97	1,892,930
98	1,821	98	1,080	98	1,678,193
99	1,554	99	863	99	1,742,670
00	1,389	00	43,653	00	1,474,225
01	1,485	01	51,822	01	1,287,693
02	1,607	02	29,524	02	1,415,284
03	1,563	03	27,493	03	1,488,333
04	1,512	04	11,943	04	1,353,551
05	1,285	05	27,571	05	1,129,838
06	1,387	06	47,455	06	1,173,284
07	1,220	07	67,686	07	1,150,297
08	1,177	08	124,831	08	994,801
09	811	09	76,478	09	866,759
10	770	10*	40,000	10*	643,000
年次 Year	絹織物Silk Fabrics (ton)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)
95	128	95	168,500	95	8,000
96	53	96	129,900	96	200
97	56	97	119,600	97	550
98	97	98	55,300	98	121
99	74	99	47,900	99	2,472
00	106	00	54,701	00	488
01	106	01	63,241	01	2,699
02	163	02	44,664	02	332
03	167	03	54,282	03	1,068
04	177	04	91,078	04	2,429
05	210	05	182,725	05	9,090
06	146	06	117,426	06	16,405
07	162	07	102,906	07	26,698
08	159	08	150,837	08	4,217
09	112	09	124,192	09	2,773
10*	101	10*	110,000	10*	3,000

資料: ブラジル製糸協会

注: *印は見込み数値

Source: ABRASEDA

Note: *Forecast

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2012 年 1 月号 NO.22 平成 24 年 1 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず